

Challenge!

チャレンジを続けるかぎり、
成長し、進化できる。
そう信じてきたからこそ、
チャレンジする姿を
応援したくなるのです。

伊達 公子
EMシステムズ・アンバサダー



月 水 金 発行

薬事日報社

東京本社 〒101-8648
東京都千代田区神田和泉町1
☎ (03) 3862-2141
FAX (03) 5821-8757
大阪支社 〒541-0045
大阪府中央区道修町2-1-10
☎ (06) 6203-4191
FAX (06) 6233-3681
購読料 半年19,764円
(税込) 1年36,234円

日
薬
学
術
大
会

第54回 日本薬剤師会学術大会 福岡

電子薬歴・レセコン一体クラウド型
薬局向け業務支援システム



MAPS
for PHARMACY

先進的テクノロジーを活用した「**活用型**」業務支援システム誕生!

お客様へご提案する

3つの特長

- 1 **患者フォローアップ**を支援
- 2 処方箋情報から **病名を推論**
- 3 **服薬指導文章**をサジェスト(提案)

株式会社 EMシステムズ

WEBはこちら

EMシステムズ

検索



東京本社

〒105-0012
東京都港区芝大門2-10-12
KDX 芝大門ビル
TEL:03-3432-5144(代表)

大阪本社

〒532-0003
大阪府大阪市淀川区宮原1-6-1
新大阪ブリックビル
TEL:06-6397-1888(代表)

本サイトの著作権は株式会社薬事日報社に帰属します。本サイトの印刷物等の利用は私的利用の範囲内に限られており、
外の無断複製・無断転載・無断引用はご遠慮ください。当ファイル(印刷物含む)を社内資料、営業資料などでご利用される場合はご相談ください。

株式会社薬事日報社 TEL:03-3862-2141 shinbun@yakuji.co.jp http://www.yakuji.co.jp/



第54回日本薬剤師会学術大会 ランチョンセミナー17

9/19(SUN) 12:30-13:30

オンラインセミナー

データヘルス改革の取り組みで 薬局はどう変わるのか

【オンライン資格確認
電子処方箋他】

座長 | 山村 真一 先生 (保険薬局経営者連合会 会長)

厚生労働省 保険局
医療介護連携政策課長 山下 護様

「オンライン資格確認の
普及への思い」

一般社団法人
保健医療福祉情報
システム工業会 岡 明男様

「オンライン資格確認・電子処方箋が
もたらす薬局の変化」

PHC株式会社
メディコム事業部 瓜田 耕一氏

「データヘルス改革に向けての
メディコムの取り組み」

パネルディスカッション

ファシリテータ | 菅原 幸子 様(ドラビズon-line 編集長)

厚生労働省 保険局 医療介護連携政策課
保険データ企画室 保険データ企画係長 太江 俊輔様

保険薬局経営者連合会 会長 山村 真一先生

日本コミュニティファーマシー協会 理事 篠原 久仁子先生

薬局支援協会 代表理事 竹中 孝行先生

一般社団法人
保健医療福祉情報システム工業会 岡 明男様

薬局の関係者の方向けに、
経営やオンライン化などの役立つ資料を提供中

<https://bit.ly/3rkDjZT>



第54回日本薬剤師会学術大会 / 共催：PHC株式会社

視聴方法

- ・本セミナーはオンラインセミナーです。
- ・事前登録制ではありません。
- ・大会参加登録を行っている方は視聴可能です。(ただし、定員は1,000名)
- ・大会参加登録がまだの方は直前登録をご利用ください。

直前登録期間：9月10日(金)～9月17日(金) 正午

- ※ 9月18日(土)～会期中のご登録はできませんので、ご注意ください。
- ・視聴方法は大会ホームページにてご案内いたします。

PHC株式会社
メディコム事業部

〒105-8433 東京都港区西新橋2丁目38番5号 電話(03)5408-7287(代表) <https://www.phchd.com/jp/medicom>
■お問い合わせ先メールアドレス mc_dotcoi@gg.phchd.com ■営業時間:月曜日～金曜日(祝日および当社の休日を除く) 9:00～17:30

medicom

剤形写真データをお探しの方へ！

医療用医薬品の剤形写真データは、電子カルテ、レセコン、
薬歴管理システム、お薬手帳アプリなど、医薬品に係わる
医療情報システムなどで広く利用されています。

薬事日報社の剤形写真データは、高解像度の写真と確実な
メンテナンスが支持されています。

剤形写真データをご利用またはお探しの方は、この機会に
ぜひ、薬事日報社の剤形写真データをご確認ください。

剤形写真

検索

株式会社 薬事日報社
www.yakuji.co.jp

多様性を可能性に

未来に広がる薬剤師

19、20日に完全ウェブ開催

第54回日本薬剤師会学術大会(大会運営委員長・原口亨福岡県薬剤師会会長)が19、20の両日、完全ウェブで開催される。新型コロナウイルス感染症の動向に注視しつつ、ウェブと現地でのハイブリッド形式での開催に向けた準備を進めてきたが、急遽現地開催は断念した。特別記念講演、三つの特別講演、22の分科会、17のランチョンセミナーなどが予定されている。

福岡での開催は、第36回以来18年ぶりの開催で、初のハイブリッド方式となった第53回大会から分科会の演題数を多く準備し、盛大に実施する予定だった。

ただ、新型コロナウイルス感染症患者数は全国で増加し、全国で緊急事態宣言が発令され、感染者数が急激に減少することが

想像し難い状況となっている。医療従事者である薬剤師の学術大会が環境を越える形で開催される

点、緊急事態措置の適用が会期と重なった場合

は、開催会場の使用制限

等による中止も想定される

点などについて考慮が必要となっていたことか

ら、大会の開催方式を完全ウェブ開催することに決めた。原口氏は「現

地での開催が行えずに非常に残念」と悔しさを滲ませた。

完全ウェブ開催となるものの、当初に計画していたプログラムは最大限

実施する方向だ。特別記念講演・特別講演・分科

会・共催セミナーなどのプログラムはライブ配信で視聴・閲覧できるよう

にした。一般演題(口頭およびポスター)については全てウェブポスターとしてデータのみ掲載す

る方針。県民公開講座については中止を決めた。

大会のメインテーマは、いろいろな分野、領域で活躍する薬剤師が一同に集い、ともに学ぶ場とするため、メインテーマを「多様性を可能性に」とし、サブテーマを「未来に広がる薬剤師」とした。

原口氏は、「医療職種の中でも薬剤師が最も多

領域で活躍している職種

ではないか」との考えを示し、「様々な専門性を

持った人たちが集まり、発表することでインベ

ンションが生まれる」と述べ、学術大会を多様性に

基づくインベションを生み出す場にしたと考えて

だ。また、薬剤師に対する需要についても「顕在化

されているニーズだけでなく、薬剤師側にも地域住民側にも十分に認識

されていない多様なニーズを発掘する必要性を指摘した。

特別記念講演では、2016年にノーベル生理

学・医学賞を受賞した大隅良典氏(東京工業大学

科学技術創成研究院細胞制御工学研究センター特

任教授・米倉教授)が、「オートファジー研究の展開から見えてきたこ

と」のテーマで話す。大隅氏は福岡県福岡市出身。細胞内にある不要な

物質を分解するオートファジー研究の先駆者として、興味深い話が聞け

そうだった。



現地開催であれば使用する予定だった福岡国際会議場

ソーシャル・キャピタルに「京都大学SPH薬局情報グループ」の活動から「の」テーマで講演する。分科会の演題数は22に増やし、薬剤師養成から臨床研究、医療ICT、医療経済、在宅医療、改正医薬品医療機器等法、医薬品の安定供給、人工知能・デジタルヘルス、新型コロナウイルスに関連した話題など多彩なラインナップを揃えた。多様性を可能性にのテーマにふさわしい新たな演題も取り入れられている。

特別講演は三つの演題

を用意している。大戸茂

弘氏(九州大学大学院薬

学研究科薬理学・教授

・薬学部長)が「身体に優しい時間治療」

小泉俊三氏(東光会七

条診療所所長/Choosing

Wisely Japan代表)、岡田

浩氏(京都大学大学院医

学研究科社会健康医学系

専攻健康情報学分野特定

講師)が「薬局を地域の

【主催】日本薬剤師会、福岡県薬剤師会
【会期】19日(日)、20日(月・祝)
【大会ホームページ】<https://jpa54.com/>

主な内容

山本日薬会長に聞く	4～5
原口大会運営委員長に聞く	6
日薬賞受賞者の横顔	7～8
分科会の見どころ・聞きどころ	9～12、17～18
〈グラビア〉	
ワクチン接種体制構築に協力 福岡県薬の取り組み紹介	13～16
話題の調剤支援システム	23～26

初版発行から
60年以上

薬剤師のあるべき姿を示した必携書！

第十四改訂 調剤指針

日本薬剤師会 編



B5判/511頁/定価4,800円+税

第十四改訂

調剤指針

日本薬剤師会 編

本書は、調剤の概念や処方箋、処方監査、疑義照会、後発品対応、製剤ごとの取扱い、医薬品管理など薬剤師(調剤)業務に関するガイドラインとなる『指針』を示し、その内容をわかりやすく解説しています。

- ◆最新版をご活用ください◆
- ◆調剤業務の規範書として
- ◆薬局の必備書として
- ◆実務実習の教科書として

薬事日報社

書籍のご注文は、オンラインショップ(<http://yakuji-shop.jp/>)または、書籍注文FAX03-3866-8408まで。

当ファイルの著作権は(株)薬事日報社またはコンテンツ提供者者に帰属します。当ファイル(印刷物含む)の利用は私的利用の範囲内に限られ、それ以外の無断複製・無断転載・無断引用はご遠慮ください。当ファイル(印刷物含む)を社内資料、営業資料などでご利用される場合はご相談ください。

株式会社薬事日報社 TEL:03-3862-2141 shinbun@yakuji.co.jp <http://www.yakuji.co.jp/>

コロナで問われる薬局の使命

医薬品提供 役割果たして

新型コロナウイルス感染症の再拡大で地域の医療提供体制確保が大きな課題となっている。薬の長期処方希望する患者が増えるなど受療行動が変わる中、地域での医薬品提供を支える薬局や薬剤師は今後どう対応していくのか。改正医薬品医療機器等法の関連省令第2弾の施行

で、地域連携薬局や専門医療機関連携薬局など薬局認定制度がスタートする中、日本薬剤師会の山本信夫会長にコロナと共存するウィズコロナ時代、収束後のポストコロナ時代における薬局・薬剤師像などを聞いた。

受診間隔の長期化に対応

OTC含め服薬状況把握を

——コロナ禍の中で薬局や薬剤師のあり方をどう捉えているか。

薬局・薬剤師は、地域の中で患者・住民一人ひとりに対する医薬品提供

をどう支えていくか、地域での医薬品提供体制をこれまで以上に考える必要がある。

当初は大方の方々がこれば少し収まるのではないかと、楽観的な見方も

あった。しかし、スペイン風邪やバスタの感染等も一定の収束を見るまでに3～4年かかっているように、これまでの歴史を振り返ってみると、収束までにまだ時間はかかるのかなと思っている。

新型コロナウイルス感染症患者を受け入れてきた医療機関にとっては大変な状況であり、薬剤師も様々な工夫をしながら、コロナ感染症が私たちの身体にどういった反応を起すかなどその性格がはっきり分かっていない時期も、感染防御をしながら医薬品の供給体制が滞らないよう対応してきた。しかし、医療者の一員として新型コロナウイルス感染症拡大の中にあって医療提供体制を確保するために頑張ってきたが、社会から何もやっていないのではないかと

いう批判もあり、適正な評価が得られていないことは残念だ。

感染が収束した後のポストコロナがいつ来るか、また明確には分からないが、この1年間で患者さんの医療機関へのかかり方がだいぶ変わってきたのではないかと思っている。受診間隔が長期になってきていることも、大きな特徴と言えるだろう。

また、患者さんが長期

投薬を受けることが一般的と感じるならば、処方箋を記載通りに一度に調剤し投薬するか、あるいは分割調剤を選択するか、患者さんのこれまでの投薬状況等への配慮が不可欠となる。となると、改正医薬品医療機器等法が求める継続的な服薬フォローが義務化となつたように、受診間隔が長くなってもその間、薬剤師が患者さんをフォローしながら、継続した薬物治療を支えていくことが大きな課題になる。

ポストコロナ時代では、薬剤師が処方箋枚数を競うのではなく、どれほどの患者さんをしつかり自分の薬局でケアできているのかが問われてくる。その課題解決には、

これまで別々の視点で考えられがちであった調剤薬の提供とOTC医薬品の供給を合わせて考える必要があり、患者さん一人ひとりの状況をしっかりと把握した上で、薬剤師がOTC医薬品を含めて「その人」が使う医薬品を一元的に、継続的に管理し、薬の服用状況や健康状況さらには生活状況までも観察していかなくてはならない。言わば「A Patient」から「The Patient」への視点転換と言っても良いだろう。

また、こうした視点で、地域の中でどう医薬品提供体制を組み上げていくかを考えていく必要がある。患者さんの来局日数は減る中で、薬の処方量は変わらないという

実態伴う薬局認定制度に

地域での機能考えるべき

——認定薬局制度が8月に施行された。

地域包括ケアの中で薬局や医療機関に加えて地域との連携を踏まえた「地域連携薬局」と、癌などの専門的な薬学的管理に対応できる「専門医療機関連携薬局」を都道府県知事が認定する制度として新たに設けられた。この制度改正を受けて多くの薬剤師の目が二つの認定薬局に向いているように感じる。

まず薬剤師として考えるべきことは、「薬局が医薬品供給で重要な拠点

2019年の薬機法改正は、これまで幾度かの法改正を経て薬局の定義や薬剤師の役割を定めてきた大きな改正だったと思う。地域連携薬局は健康サポート薬局と同様に、認定が取れたから何かできるわけではない。地域連携薬局はどの

薬局でもなることはできると思うし、地域連携薬局という看板を立てなくても地域連携薬局を標榜している薬局以上に地域に薬剤師・薬局サービスを提供できる。

薬局として持たなければならない機能は、薬剤師法第1条に書かれてあるように、調剤と医薬品供給、その他薬事衛生を司ることに他ならないが、多くの薬剤師が「OTC医薬品の供給と調剤は別」と誤解してしまつた。これでは地域への医薬品供給は大丈夫なのか

状況も踏まえて、日薬では5月に公表した政策提言の中で地域医薬品提供計画(仮称)を示しているが、地域医薬品提供計画と地域医療計画が一体化して機能する時代、すなわちわが国で医薬分業制度が社会制度として機能する時代が訪れるものと思う。

一方、新型コロナウイルス感染症拡大と同じ時期に後発品の供給不安が発生し、薬剤師はサプライチェーンの重要性も改めて実感したと思う。ウィズコロナの時代に後発品が足りないというところを経験し、今もなお不足していることに、将来的に地域への医薬品提供体制をどう考えるか別の意味で大きな課題になった。

ということになる。

薬局は1類、2類、3類、要指導医薬品、処方箋医薬品等、すべからず医薬品を提供する場所とされたことから「要指導医薬品を扱いません」というのは調剤拒否と同じ行為であると思う。また、地域住民から見ればどんな時間でもいつでも薬剤師と相談できる薬局と、決まった時間ではないと薬剤師に相談できない薬局とは、前者のほうが安心感が増すだろう。

今回薬機法で示された薬剤師の役割をしっかりと果たせれば、認定薬局の有無に関わらず、地域の人たちは地域・住民につ



日本薬剤師会 山本 信夫会長に聞く

日本薬剤師会 山本 信夫会長に聞く

小野薬品工業株式会社



番組内容は、放送後もABCラジオのホームページで動画配信しています。

がんサバイバーから生き方学び、一緒にがんを乗り越えていく番組です。

出演家の宮本亜門さん(前立腺がん)、歌手・エッセイストのアグネス・チャンさん(乳がん)、フリーアナウンサーの笠井信輔さん(悪性リンパ腫)など、各方面で活躍されているゲストのみなさんをお迎えし、どんな気持ちでがん向き合い、どんなきつかけで前向きになれたのかなどをお聞きしていきます。

がんサバイバーから生き方学び、一緒にがんを乗り越えていく番組です。

出演家の宮本亜門さん(前立腺がん)、歌手・エッセイストのアグネス・チャンさん(乳がん)、フリーアナウンサーの笠井信輔さん(悪性リンパ腫)など、各方面で活躍されているゲストのみなさんをお迎えし、どんな気持ちでがん向き合い、どんなきつかけで前向きになれたのかなどをお聞きしていきます。

がんと診断されたすべてのがんサバイバーを応援するラジオ番組「Changeの瞬間(とき)」が、がんサバイバーストーリー」を放送中です。

がんと診断された
そのときから始まる
未来物語をあなたに。

～がんサバイバーストーリー～

ABCラジオ:日曜あさ 8:10～8:25
TBSラジオ:土曜あさ 8:45～9:00

小野薬品

がんサバイバープロジェクト

公益財団法人

日本対がん協会

がんサバイバープロジェクトはがん患者と家族のクオリティオブライフを支援する共同プロジェクトです



大会運営委員長 原口 亨氏(福岡県薬剤師会会長)に聞く

研鑽の場確保へウェブ開催に

第54回日本薬剤師会学術大会が「多様性を可能性に」未来に広がる「薬剤師」をテーマに19、20日に完全ウェブで開催される。当初は現地開催とウェブ開催のハイブリッド形式で実施する予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で急遽、開催方法を変更した。大会運営委員長の

——完全ウェブ開催を決めた背景は。

長い期間をかけて準備を進めてきただけに、開催方式が完全ウェブ開催となったことはとても残念だ。

8月に入って県知事が国に対して緊急事態宣言を要請し、宣言の対象地域となった。福岡はこれまで4回の緊急事態宣言を発令しており、1回目は6週間、2、3回目は5週間が対象期間となっている。8月12日に完全ウェブ開催を決めたのは、日薬学術大会の開催時期と宣言の期間が重なってしまったからだ。日薬大会を通常通り開催しようとしても、会場を使うことができない措置が取られ、最悪ウェブで開催することもできなくなってしまう。

完全ウェブで開催するにしても、民間の施設で配信に特化した準備をせざるを得ないことを考えると、このタイミングでなければ完全ウェブ開催への変更ができなかった。昨年の北海道での開催は感染者数が減ってきて、ちょうど感染再拡大する前に当たる「谷のタイミング」で、現地開催とウェブ開催のハイブリッド方式で実施することができた。ただ、8月12日には福岡県の1日の感染者数が1000人を越えた。

十分な感染防止対策を取った形で開催するとしても、人流が発生したことに伴う感染リスクの可能性も考えないといけないし、他県から集まった薬剤師が福岡に来て感染してしまうこともあり得る。全ての医療職種が医療提供体制の確保に取り組む中、薬剤師の思いだけでは物事の選択はできない。

とはいえ、コロナ禍だから全てをコロナのせいにして中止すればいいという問題でもないし、そうなると思いつく研鑽もできなくなる。どういった開催方法が

原口亨氏(福岡県薬剤師会会長)は、「コロナの感染が続く、緊急事態宣言が発令されている状況だと現地開催は難しい。薬剤師の自己研鑽も必要である中で完全ウェブ開催は苦渋の決断だった」と打ち明ける。原口氏に完全ウェブ開催に決めた背景や、今回のテーマにかけた思いを聞いた。

良いか考えた結果、完全ウェブ開催という選択に至った。

緊急事態宣言下では会

薬剤師は多様性に富む職種 革新生み出す可能性持つ

——「多様性を可能性に」というテーマに込めた思いは。

医療職種の中でも、薬剤師が最も幅広い領域で働いている職種だと思う。医療職種は、何かに特化した資格を持っているから専門職と呼ばれると思うが、薬剤師の専門職が生かされて働く場は他の医療職種に比べて突出して多い。

研究開発で活躍してい

る薬剤師も多いし、女性の割合が多いことも一つの特徴で、化粧品メーカーなどで働く薬剤師もいる。統合医療にも関わり、健康食品や特定機能食品の開発・販売にも関わる。薬剤師は医療職種でありつつも、医療の場でもないところで活躍しているケースも多く、多様性を持って活躍できている状況については肯定的に考えていいことだと思う。

ただ、それぞれの専門性を持った人たちが集まって一つのことを突

される企業の方々には、

企業展示がなくなることによるお詫もしいないといけないし、返金もしないといけない。学術大会で福岡の素晴らしいところを宣伝し、皆さんから「福岡っていいところですね」と言ってもらえることを楽しみにしていた。福岡に来てもらえなくなるのが大変残念だ。

場が使えるようになるためオペレーションから資材、機材の選択まで全てを変えないといけない。出展

き詰めていくことは、

専門的な活動としてはとても重要なことだと思う一方、限定した活動にせざるに様々な人たちが持つ多様性から生まれてくるイノベーションもあると考えている。同じ方向を向いている人、同

新たな領域に触れる機会

——演題について。

過去の日薬大会ではおそろく採択されないような演題やシンポジウムを立てた。コロナ関連や災害医療関連、ICT関係

が入ってくるが、それ以外に各薬局の活動や人工知能(AI)に関する演題も用意した。また医療経済的な視点で薬剤師が求められていることなどもテーマに扱った。22の分科会、17のランチョンセミナーを予定している。専門薬剤師制度が走り

始めているので、専門領域に特化した知識を学べる環境ができた。日薬学

思う。

多様性からイノベーションを生み出せる環境を薬剤師は持っている。特に日本薬剤師会は薬剤師免許を持っていることだけで所属できる組織だ。それぞれの思いや価値観を持った人が集まって、専門性を突き詰めて活動していくことも当然できるし、薬剤師免許を持つ

ているという共通項で構築された団体の学術大会であれば、これまで触れることのなかった領域で新たな機会を得ることができる。こうした思いから、「多様性を可能性に」というテーマにした。

もう一つの側面として、薬剤師に対する潜在的なニーズを自ら発掘していくことも求められている。例えば、ワクチンの打ち手候補に薬剤師を

じこに取り組んでいる集団だけでは絶対持つことができなかった視点からの意見が必要で、自分たちとは違うフィールドで活躍している薬剤師の意見を融合したときに、持続的なイノベーションが生まれてくる

——どんな学術大会にしたいか。

8月中旬時点の事前参加登録者は約9500人となっている。ウェブでの参加がしやすいよう、事前登録者の参加費は7000円とリーズナブルな価格にした。同じ時間帯で興味のある演題が複数あったとしても、会場の移動が簡単でできるの

で視聴しやすいと思う。日本薬剤師研修センター研修受講シールの配布についても見直した。単位申請を希望する場合は対象となる分科会を視聴

術大会では専門特化というよりは領域横断という位置づけで、様々な領域のエッセンスを知ることができる場にして、きっかけ作りしてほしい。将来、地域で活躍する薬剤師をイメージすると、様々な領域で活動していく中で研究、臨床、薬局、病院で働いている人たちの知識や経験を共有できるプラットフォームが必要になる。薬剤師が様々な領域に関与しているのは事実なので、新たな領域に触れて行動を起こす薬剤師が一人でも増えたらいい。

加えるべきかの議論はこ

れまで予想できなかったことであり、われわれも地域住民もまだ認識できていない薬剤師へのニーズも存在している。

地域に密着した医療専門職である薬剤師だからこそ、潜在的なニーズに対応できると思う。地域によって薬剤師に求められるものは異なるが、その地域、その人口構成だからできたではなく、日本全域で薬局や薬剤師があらゆる潜在的なニーズに対応できるような環境にしていこうと

が望ましい。

薬剤師の多様性に基づいてイノベーションを生み出していくことと、社会に存在する多様で潜在的なニーズに対応していくという両面に対応できるようにしたい。

し、キーワード提出を行う必要があったが、今回は薬剤師研修センターに持ちかけてキーワードを報告するのではなく、福岡県が視聴ログを管理し、研修受講シールの配布を行うことになった。

視聴ログで管理してシールを発行する方法は、薬剤師研修センターが稼働を予定している薬剤師研修・認定システム(PERC)の概念と同じであり、先取りした形であることから特例で認めてもらった。

普段であれば参加しないような分科会に参加してもらいたい。そこで新たな気づきが生まれることを期待している。

Kracie

漢方製剤

ニンジンヨウイトウ

薬価基準収載

クラシエ 人參養栄湯 エキス細粒

1日2回服用タイプ



1日3回服用タイプ

効能・効果

病後の体力低下、疲労倦怠、食欲不振、ねあせ、手足の冷え、貧血

医療用医薬品ウェブサイト「漢・方・優・美」 www.kampoyubi.jp

■詳細は添付文書をご参照ください。添付文書の改訂に十分ご留意ください。

スティックで、健やかな暮らしへ

クラシエ 薬品株式会社

[資料請求先] 〒108-8080 東京都港区海岸3-20-20

藤野 哲朗 先生の横顔

このたび、藤野哲朗先生が2021年度日本薬剤師会賞を受賞されましたことを心よりお祝い申し上げます。

藤野先生は1996年から当会の理事を6年、常務理事4年、副会長6年、会長5年という長きにわたって重責を担われ、当会はもとより地区薬剤師会の健全な発展に大きな役割を果たされました。

が、その目的の一つに健康サポート機能の強化があります。藤野先生は会長就任時に、調剤業務を専門とした薬局、つまり「調剤薬局」がビジネスモデル化していることに危機感をお持ちになり、医薬分業の本質は「健康サポート機能」であることを基本に据え、県民にとって薬局が日常的で不可欠な存在となるために強化すべき機能を役員と共に検討し、2015年に「福岡県版薬局グランドデザイン」を完成させました。薬局が目指すべき方向を示したこのグランドデザ

インは、他県の薬剤師会からの問い合わせを受けると共に、業界誌にも取り上げられるなど、大きな反響を呼びました。

今回の薬機法改正においても、健康サポート機能の強化が重要な事項として盛り込まれたことは、藤野先生の優れた先見性の証左であると思います。

先生には、会長を退任された現在も当会の顧問として後進の指導・育成にお力をいただいております。会員を代表して改めて感謝申し上げますと共に、先生の今後ますますのご健勝とご活躍を祈念いたします。

(福岡県薬剤師会会長・原口亨)



プロフィール

1975年福岡大学薬学部卒業。薬局勤務を経てふじの薬局経営。学校薬剤師。元福岡市薬剤師会副会長、元福岡県薬剤師会会長、元日本薬剤師会理事。福岡県薬業団体連合会会長、福岡県医療審議会委員、福岡県薬事審議会委員、九州地方社会保険医療協議会委員、福岡県学校保健会理事などを歴任。厚生労働大臣表彰、福岡県知事表彰などを受賞。2016年に藍綬褒章授賞。

21年度日本薬剤師会賞

受賞者の横顔

横顔



プロフィール

1970年東京薬科大学薬学部卒業。村松薬局経営。元豊橋市薬剤師会理事、元愛知県薬剤師会会長、元日本薬剤師会常務理事。元日本薬剤師会学校薬剤師部会幹事。日本学校保健会常務理事、愛知県学校薬剤師会会長、愛知県学校保健会副会長、愛知県医療審議会委員、愛知県薬事審議会委員、愛知県防災会議委員などを歴任。現在、愛知県薬剤師会顧問、愛知県学校薬剤師会名誉会長。文部科学大臣表彰、愛知県知事表彰などを受賞。

このたび、村松章伊先生が2021年度日本薬剤師会賞を受賞されましたことを心よりお祝い申し上げます。先生はリーダーとして本会の大きな事業を牽引してこられました。

18年に完成しました新会館建設事業においては、

村松 章伊 先生の横顔

2013年度から村松章伊先生が愛知県薬剤師会の会長を務められた2期4年間。細身のお身体からよくこれだけのエネルギーを出せるものだと感心させられるほど、日本薬剤師会の理事や常務理事を兼任されながら、先生はリーダーとして本会の大きな事業を牽引してこられました。

「県民に発信し、県民に貢献する公益性の高い施設であり、薬剤師会の象徴となる施設」のコンセプトのもと15年の基本構想・計画から17年の工事着工まで陣頭指揮をされ、3階建て約600坪の新会館の建設に大きく貢献されました。

16年10月には「プロフェッション」を追求する「Best and beyond」を大会テーマとした第49回日本薬

剤師会学術大会の大会運営委員長として大会を成功裏に導かれました。

15年4月に愛知県が開設した「あいち健康の森薬草園」においては、開園当初から本会が指定管理者のグループの一員として関わることに尽力されました。本会が運営する3ヘクタール余りの本薬草園は、多くの県民が健康やくすりについて楽しく学べる場となつています。

14年には「妊娠・授乳サポート薬剤師養成講座」を

人兵庫県薬剤師会の会長に就任され、13年4月、兵庫県薬剤師会初代会長就任後は、当時の兵庫県病院薬剤師会会長の橋田亨先生との緊密な連携のもと、16年4月には兵庫県病院薬剤師の皆様を兵庫県薬剤師会のお仲間を迎えることができました。このことは兵庫県薬剤師会会員にとって無形の財産になることと確信いたしております。これらの

これは、2期4年間で、これら多くの事業を完成あるいは道筋をつけられると、後は後輩に任せるからと惜しまれながら勇退されました。

このたび、村松章伊先生が日本薬剤師会賞を受賞されますことを心よりお祝い申し上げますと共に、先生におかれましては、今後とも一層ご活躍されますことを祈念申し上げます。

(愛知県薬剤師会会長・岩月進)



プロフィール

1968年武庫川女子大学薬学部卒業。住吉赤壁薬局経営。元学校薬剤師。元神戸市薬剤師会会長、元兵庫県薬剤師会会長。元日本薬剤師会代議員。元日本薬剤師会一般用医薬品委員会、薬剤師養成教育に関する特別委員会、職能対策委員会地域保健検討委員会、総会議事運営委員会、組織・会員委員会、年金委員会委員。兵庫県医療審議会委員、兵庫県薬事審議会委員、社会福祉審議会委員などを歴任。旭日双光章、厚生労働大臣表彰、兵庫県知事表彰などを受賞。

これは、2期4年間で、これら多くの事業を完成あるいは道筋をつけられると、後は後輩に任せるからと惜しまれながら勇退されました。

このたび、村松章伊先生が日本薬剤師会賞を受賞されますことを心よりお祝い申し上げますと共に、先生におかれましては、今後とも一層ご活躍されますことを祈念申し上げます。

(兵庫県薬剤師会会長・笠井秀一)

このたび、赤松路子先生が2021年度日本薬剤師会賞を受賞されましたことを心よりお祝い申し上げます。

赤松先生のご功績をあげればきりがありませんが、先生は、それまでほとんど実態がなくばかりの団体であった神戸市薬剤師会を

00年に先生が会長に就任されるや瞬く間に数々の実績をつまね、09年には兵庫県薬剤師会に先駆けて、神戸市薬剤師会を一般社団法人に改編し、初代会長に就任されました。

兵庫県薬剤師会において、12年4月に女性薬剤師として初めて当時の社団法

これは、2期4年間で、これら多くの事業を完成あるいは道筋をつけられると、後は後輩に任せるからと惜しまれながら勇退されました。

このたび、村松章伊先生が日本薬剤師会賞を受賞されますことを心よりお祝い申し上げますと共に、先生におかれましては、今後とも一層ご活躍されますことを祈念申し上げます。

(愛知県薬剤師会会長・岩月進)

これは、2期4年間で、これら多くの事業を完成あるいは道筋をつけられると、後は後輩に任せるからと惜しまれながら勇退されました。

このたび、村松章伊先生が日本薬剤師会賞を受賞されますことを心よりお祝い申し上げますと共に、先生におかれましては、今後とも一層ご活躍されますことを祈念申し上げます。

(愛知県薬剤師会会長・岩月進)

福島県立医科大学
会津医療センター

漢方処方集 運用の実際

[編著] 三瀧 忠道 (福島県立医科大学 会津医療センター漢方医学講座 教授)

【生薬診療や調剤の実践マニュアルとして実務に役立つ情報をまとめた処方集】

- 方剤一覧には、著者の臨床経験に照らして参考になるとされるポイント、使用目標、有効であった疾患・症候などを記載。
- 服用方法(時間、量、合方、幼少児対応など)や生薬処方の調製方法をわかりやすく解説。
- 「お役立ち情報」として副作用や薬剤情報説明用の参考資料(一覧表)、患者接客時の注意、臨床現場からのひと言(ワンポイントアドバイス)も記載。

目次

- 【序】本書作成の目的一 序に代えて
- 【解説】本処方集成立の過程について
- 【方剤】
- 【服用方法】
- 【生薬処方の調製】
- 【お役立ち情報】
- 【方剤索引】
- 【健康調査表】



漢方処方集

運用の実際

三瀧 忠道・編著



実践に基づいた 運用法と口訣

判型172mm×102mm/368頁
定価 4,950 円
(本体 4,500 円+税 10%)

書籍の詳細・ご注文はURLまたはQRコードからオンラインショップへ ⇒ <https://yakuji-shop.jp/>

当ファイルの著作権は(株)薬事日報社またはコンテンツ提供者者に帰属します。当ファイル(印刷物含む)の利用は私的利用の範囲内に限られ、それ以外の無断複製・無断転載・無断引用はご遠慮ください。当ファイル(印刷物含む)を社内資料、営業資料などでご利用される場合はご相談ください。

株式会社薬事日報社 TEL:03-3862-2141 shinbun@yakuji.co.jp <http://www.yakuji.co.jp/>

佐々木 孝雄先生の横顔

佐々木孝雄先生がこのたび栄えある日本薬剤師会賞を受賞されましたことを心よりお祝い申し上げます。

佐々木先生は1998年に宮城県薬剤師会理事に就任され、2002年から常任理事、08年から副会長、さらに12年から19年まで会長として、強固な信念のもとに豊富な識見と卓抜な手腕を発揮し、本会の円滑な

会務運営に多大なるご尽力をいただき、現在は本会の顧問としてご意見を伺いしております。

11年、第44回日本薬剤師会学術大会を宮城県で開催する予定で準備しておりますが、3月11日の東日本大震災に伴い、大会の開催は中止せざるを得ませんでした。そのような状況においても、先生はその豊かな

発想と行動力を生かし、被害が最も甚大だった気仙沼・南三陸地区における地域医療の復旧に向けて、いちばやく足を運び、薬剤師の職能を発揮するべく活動を行いました。

宮城県との災害協定に基づき薬剤師班としての救護所・仮設診療所での調剤業務、避難所を巡回し被災者の健康相談やお薬手帳の確認、仮設薬局の開局など被災地の復旧支援に尽力されました。

また、この震災の経験を踏まえ、ライフライン喪失下の被災地での医薬品の供給を可能とする医薬品供給車両「モバイルフーマーシー」を独自に企画し、開発および製作を全国に先駆け着手しました。

これにより次の災害時には速やかに宮城県から薬剤師班を派遣し、被災地域の医療チームの一員として支援活動が行える仕組みを整備した功績は誠に偉大であり、本会の活動・運営に大いに貢献されました。

プロフィール

1982年京都薬科大学卒業。病院勤務を経て一樹新生薬局開設、今年勇退。元薬原薬剤師会会長、元宮城県薬剤師会会長。元日本薬剤師会代議員。元日本薬剤師会総会議事運営委員会委員、一般用医薬品委員会委員、医薬品情報評価検討委員会委員、会館建設特別委員会委員、薬局薬剤師部会幹事。宮城県公害衛生検査センター理事長、宮城県学校保健会副会長、宮城県地域医療情報センター評議員などを歴任。厚生労働大臣表彰、宮城県知事表彰などを受賞。

先生は、常に会の運営に使命感を持って取り組み、先生が提唱した「顔の見える薬剤師」について、県民向けに実施した健康フェアのほか、埼玉新聞に「薬、薬剤師に関するQ&A」連載のほかに、というシリーズ記事の掲載などPR活動に取り組みされました。先生が退任されたときの言葉「薬剤師は、町で二目置かれる『町の科学者』になることだ」を胸に刻み、今後の会の運営に努めてまいります。

内山 宣世先生の横顔

内山宣世先生が2021年度日本薬剤師会賞を受賞されましたことを心よりお祝い申し上げます。

内山先生は、1998年に埼玉県薬剤師会理事に就任され、その後副会長を経て、2012年から15年までの2期4年間会長として活躍されました。内山先

生は、地元商工会会長、埼玉県商工会連合会副会長を務められており、理事就任当初は二足の草鞋を履いて活動していました。その卓越した指導力と薬剤師としての豊富な知識と経験を生かし、本会の発展に大変貢献をいただきました。特に、会員相互の交流・連携、薬

剤師としての技術・知識の向上を図るために新たに青年部会を発足しました。

13年には、公益法人制度改革に伴い一般社団へ移行し、初代会長として尽力され、さらに国が推進している在宅医療・介護に薬剤師が積極的に関与するため、地域における無菌調剤の実習や緩和ケアなどの講習会を開催するなど薬剤師の職の向上に努められました。

プロフィール

1960年明治薬科大学卒業。とらや薬局を経営。元東埼玉薬剤師会会長。元埼玉県薬剤師会会長。元日本薬剤師会代議員。埼玉県医療審議会、地方薬事審議会などの委員を歴任。埼玉県知事表彰、厚生労働大臣表彰、文部科学大臣表彰を受賞。2001年黄綬褒章、06年旭日双光章受賞。

先生のご健勝と今後の一層のご活躍を心より祈念申し上げます。

廣部 満先生の横顔

このたび、廣部満先生が栄えある2021年度日本薬剤師会賞を受賞されましたこと、心よりお祝い申し上げます。

廣部先生は、02年に福井県薬剤師会の副会長として6年間、本会の多岐にわたる事業に携われ、08年から14年までの3期6年間会長としてご活躍されました。先生は、優しく親しみやすいお人柄に加え、高い指導力を持ち合わせており、薬局・薬剤師を取り巻く環境の変化や薬剤師業務

の多様性に対応するため、幅広い経験と知識を有する役員と共に、数多くの課題に取り組み成果を上げられました。

一部となりますが、顕著なご功績を紹介しますと、薬学教育6年制に伴う薬局・病院での長期実務実習開始のため、受け入れ体制を整えと共に、実務実習認定指導薬剤師の養成に努め、北陸地区調整機構等、関係機関と連携の上、より質の高い実務実習を実現されました。

廣部先生におかれましては、今後ともご健勝で一層ご活躍されることを祈念申し上げます。

（福井県薬剤師会会長・角野雅之）



プロフィール

1973年星薬科大学卒業。劑盛堂薬品を経て広部薬局経営。元福井県学校薬剤師会会長。元福井県薬剤師会会長。福井県医療審議会委員、福井県学校保健会副会長、福井県献血推進協議会委員などを歴任。北陸信越薬剤師会賞表彰、福井県知事表彰、厚生労働大臣表彰などを受賞。

さらに、公益法人制度改革による法人移行の際には、各方面との折衝を重ね、本会の円滑な会務運営に多大なるご尽力を賜りました。

また、日本薬剤師会においては、予備代議員および薬局薬剤師部会幹事を10年間務められ、薬局の将来を見据えた体制の見直しや課題検討、薬局グランドデザインの新構築等に携わられました。

廣部先生におかれましては、今後ともご健勝で一層ご活躍されることを祈念申し上げます。

BUTLER
エフコート®

むし歯予防薬

1日1回のフッ素洗口でむし歯予防。
使い続けることで歯が強くなる!

1日1回、
口をすすぐだけ!
就寝前が
とくに効果的。

使用後に
水ですすがないから
フッ素が
しっかり留まる!

メディカル
クール香味



エフコート
メディカルクール香味 スッキリタイプ 第3類医薬品

フルーツ
香味



エフコート
(フルーツ香味) マイルドタイプ 第3類医薬品

継続して使用することで、むし歯予防に効果があります

SUNSTAR

<https://www.butler.jp> エフコート 検索

サンスター株式会社 〒569-1195 大阪府高槻市朝日町3-1

商品に関するお問い合わせ先: 0120-102330 (平日10:00~16:00/土日祝除く)
商品のお取り扱いに関するお問い合わせ先: 03-5441-1495 (平日10:00~16:00/土日祝除く)

当ファイルの著作権は(株)薬事日報社またはコンテンツ提供者者に帰属します。当ファイル(印刷物含む)の利用は私的利用の範囲内に限られ、それ以外の無断複製・無断転載・無断引用はご遠慮ください。当ファイル(印刷物含む)を社内資料、営業資料などでご利用される場合はご相談ください。

株式会社薬事日報社 TEL:03-3862-2141 shinbun@yakuji.co.jp <http://www.yakuji.co.jp/>

薬剤師の養成から専門性の確立まで

座長

日本薬剤師会副会長

安部好弘

福岡県薬剤師会副会長

高木淳一

2006年から薬学6年制がスタートし、15年が経過した。6年制課程では、将来どのような分野に進んだ場合にも共通して必要となる、薬剤師としての基本的な資質と能力を養成するべきであり、その上で、生涯にわたって常に研鑽し、社会に貢献することが求められる。

本分科会では、文部科学省高等教育局医学教育課と厚生労働省医薬・生活衛生局総務課担当官から講演いただく。今後求められる薬剤師としての資質について、薬学教育の中で薬剤師が果たすべき役割や国民から必要とされる薬剤師にはどのようなことが求められるか、国の立場から示してもらえるのではないかと。

その後、日本薬剤師会の高松登常務理事から「薬局薬剤師の生涯学習の展望」と題し、薬剤師会が進めている「研修シラバス」に基づく研修会の開催が、生涯学習に取り組んでいる薬剤

師の資質や専門性の向上に寄与していることについてお話しいただく。名古屋大学医学部付属病院薬剤部の山田清文教授・薬剤部長から「薬剤師の卒後研修」と題し、「薬剤師の卒後研修カリキュラムの調査研究」結果を紹介。薬剤師の卒後研修の方向性について講演いただく。

京都大学医学部付属病院薬剤部の寺田智祐教授・薬剤部長から「日本医療薬学会における地域薬学ケア専門薬剤師制度の構築と運用」と題し、講演いただく。

薬剤師として当然必要な生涯学習、卒後研修、今年度から始まった地域薬学ケア専門薬剤師制度についても、皆さんと様々な意見を通して議論できれば有り難い。

この分科会を通して、皆さんが取り組むべき薬剤師の養成から専門性の確立に至る過程の中で、薬剤師法第一条の定めにある国民に対する薬剤師の任務をしっかりと担い、将来にわたって地域の保険・医療を守り、社会に貢献する薬剤師を目指して生涯学習に取り組んでいかなければいけないことを伝えることができれば幸いである。

(高木淳一)

分科会の見どころ
聞きどころ

関連記事

9～12、17～18ページ

薬剤師の臨床研究～着想から発表～

座長

日本薬剤師会常務理事

亀井美和子

千葉県薬剤師会薬事情報センター長

飯嶋久志

臨床研究に取り組む薬剤師は年々増えているが、その研究成果は果たしてエビデンスとして活用されているのだろうか？医療が研究と共に進展するように、薬剤師が関わる薬物療法や薬学的管理は、薬剤師が取り組む研究によって発展するはずである。しかし、薬学教育を担う大学での研究のうち、薬剤師業務に目を向けた研究はまだ少なく、薬剤師となるまでに臨床研究のノウハウを身に付ける機会は少ない。

日本薬剤師会臨床・疫学研究推進委員会では、薬局薬剤師の臨床研究を推進するために、倫理審査体制の支援や全国研修会等を行っているが、「臨床研究に取り組む薬剤師をさらに増やしたい」という熱い想いで、本分科会を企画した。

まず、日本薬剤師会の宮崎長一郎副会長に「エビデンスに基づく薬剤師業務 現状と目指す姿」と題して、薬剤

師が臨床研究に取り組む必要性、薬剤師による臨床研究の活用状況等について講演していただく。次に、日本薬剤師会臨床・疫学研究推進委員会の山本康次郎委員長に「薬剤師に必要な研究倫理について」と題して、研究活動をする上で知っておかなければならない研究者が守るべき倫理規範とその考え方についてお話いただく。

また、東京理科大学薬学部の鹿村恵明教授に「研究テーマの設定と研究計画の立案」と題して、主に薬局で行う臨床研究の進め方についてお話いただく。さらに、北里大学北里研究所病院の氏原淳副部長に「研究倫理審査について」と題して、2021年6月30日に施行された「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の留意点と、倫理審査の手続き等についてお話いただく。最後に、福岡市薬剤師会の林田諭氏に「成果発表について」と題して、研究成果を発表することの意義等をご自身の経験を踏まえてお話いただく。

このシンポジウムにぜひ参加いただき、臨床研究を身近に感じていただきたい。

(亀井美和子)

医療ICTとこれからの薬局

座長

日本薬剤師会情報システム検討委員会副委員長

田代浩幸

福岡県薬剤師会常務理事

竹野将行

「ICT」とは、Information and Communication Technologyの略称で、「通信技術を活用したコミュニケーション」を表す。この技術は、IT産業や通信産業だけでなく、医療の世界においても積極的な活用が求められている。医療分野における加速するICT化によって、セルフメディケーション、オンライン服薬指導、服薬管理といった薬剤師・薬局の地域医療における役割の変化と、現在進められているオンライン資格確認、電子処方箋、PHR、EHRの今後について、各々の立場より4人の方に、最新の情報を交えて講演いただく。

基調講演として、内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室の三浦明内閣参事官に、薬剤師・薬局を取り巻く環境の変化と、医療ICTを活用することでわれわれ薬剤師職能にどのような変革をもたらし、また国民からどのような期待をされているか、最新の

情報を交えながら講演いただく。

次に、日本薬剤師会の渡邊大記常務理事から、「データヘルス集中改革と薬局業務」と題して講演いただく。

オンライン資格確認等のシステム利用により、処方箋の電子化、処方情報や調剤情報を医療機関や薬局で共有することが可能となり、来年度に向け、加速化する医療ICTにおいて薬局では多くの情報が得られることとなる。どのように業務が変わっていくのかを見据えておく必要がありその一部を紹介していただく。

次に、厚生労働省保険局医療介護連携政策課の山下護課長から、マイナンバーカードの健康保険証利用と、保険者が構築した加入者の健康・医療情報の「私書箱」を、患者と医療者の新たな治療ツールとして活用すべく講演いただく。

最後に、保健医療福祉情報システム工業会(JAHIS)の竹中裕三委員長からシステムベンダの視点より今後の動向について関連事項、電子処方箋の運用を行うにあたり想定される課題等について考察していただき、最後にシンポジストの方々と討論することとしたい。

(竹野将行)

JAPIC 医療用医薬品集 2022

2021年9月発売



- ◇ 国内流通全医療用医薬品の最新で正確な添付文書情報をお届けします。
- ◇ 約45年の編集実績による信頼と使いやすさ。
- ◇ 2021年6月後発品まで収載。
- ◇ 第十八改正日本薬局方に対応。
- ◇ 一般名の五十音順で項目を配置し、先発品と後発品の効能・用法の違いを一目で把握できます。医薬品の選択にご活用下さい。
- ◇ 「薬剤識別コード一覧」を収載。
- ◇ 更新情報メールの無料提供(要登録)。
- ◇ CD-ROM付。
- ◇ 分冊にて制作し、本文が見やすく調べやすくなりました(ケース入り)。

ISBN: 978-4-86515-182-4 B5判 約4,300頁(本文) 価格 14,300円(税込)

編集・発行

一般財団法人 日本医薬情報センター JAPIC



FAX 0120-181-461



TEL 0120-181-276

JAPIC 一般用医薬品集 2022 (要指導医薬品を含む)

2021年9月発売



- ◇ 医薬品医療機器総合機構(PMDA)・日本製薬団体連合会(日薬連)と連携し、最新の一般用医薬品添付文書を網羅的に収集。
- ◇ 付録として、
 - ・国内副作用報告の状況
 - ・重篤副作用疾患別対応マニュアル(アナフィラキシー他)
 - ・セルフメディケーション税制(医療費控除の特例)対象品目一覧
 - ・リスク区分情報
 - ・ブランド名別成分比較表 等を収録。

ISBN: 978-4-86515-183-1 B5判 約2,000頁 価格 9,900円(税込)

発売

丸善出版株式会社

FAX 03-3512-3270 TEL 03-3512-3256

医療経済や政策から見た薬局の今後

座長
日本薬剤師会会長
福岡県薬剤師会会長
山本信夫
原口亨

日本は1961年開始の国民皆保険制度により世界最高レベルの平均寿命と保健医療水準を実現している。この国民皆保険制度は、①国民全員を公的医療保険で保障②フリーアクセス③安い医療費で高度な医療④社会保険方式＋公費による運営を基本とし、現役世代のみならず、全ての世代に対し安心を提供している。

医薬分業の進展に伴い、保険薬局は地域住民にとって身近なものとなった。政策的な背景によりスタートしたとも言われる当初の分業から数十年経ち、本質的な機能や役割による患者から評価される分業に向けた議論がなされる中で、薬剤師、薬局が評価されている一方、批判も存在している。あわせて、薬剤師、薬局には薬学的知見に基づく医薬品の適正使用に基づいた医療経済的な貢献も求められている。

本分科会では、医療経済や政策から見た薬局の現状と将来像について議論を進める予定である。まず、社会保険診療報酬支払基金の神田裕二理事長に、「患者のための薬局ビジョン」を取りまとめた当時の医薬食品局長としての思いや、その後の薬剤師・薬局に対する評価に関し私見も交えて講演いただく。県立広島大学大学院経営管理研究科の遠藤邦夫教授には、シンクタンクにおいて医薬分業や薬局関係に数多く携わってきた視点に基づき、これからの薬局について講演いただく。横浜市立大学医学群健康社会医学ユニットの五十嵐中准教授からは、薬剤師や薬局の活動について費用対効果の観点も交えた評価と期待について講演いただく。

最後に日本経済大学大学院経営学研究科の赤瀬朋秀教授から、経営学的視点に基づく薬局の戦略や、対人業務に基づく評価につながる実践について講演いただく。

これらの講演をいただいた上で、シンポジストの方々と討論し、今後の薬剤師と薬局の可能性を探りたい。

(原口亨)

多様化する在宅業務

座長
日本薬剤師会常務理事
豊橋市薬剤師会副会長
荻野構一
神谷政幸

間もなく2025年を迎える。地域包括ケアシステムの構築には、高齢者の生活を地域で支えるだけでなく、小児在宅医療についても対応可能なシステムの構築が求められるようになってきた。すなわち、薬剤師による在宅医療への関わりは、医療的ケア児から緩和ケア・ターミナルケアまでと様々であり、そのニーズは多様化してきている。

本分科会では、地域包括ケアシステムの実現に向け薬剤師の在宅訪問による服薬管理の必要性和さらなる取り組みの方向性を議論したい。

基調講演として、厚生労働省医薬・生活衛生局総務課薬局・販売制度企画室の南亮介室長補佐からは、地域包括ケアや多職種連携の観点から、薬剤師は地域住民の支え手として、また地域の専門職として何ができるのか、在宅医療において薬剤師へ期待することについて講演いただく。

続いて、3人のシンポジストに発言いただく。

小児在宅医療においては、患者のラ

イフステージの切れ目をつなぐ継続的な薬学的ケアが必要である。ココカラファイン薬局姑店の川名三知代氏からは、小児在宅医療における薬剤師の役割について、専門医療機関の小児科医が主治医のまま在宅移行する超重症児たちの薬物療法を、専門医療機関と薬局の直接の連携で支えてきた経験からお話しいただく。

超高齢社会においては、ますます増加する心不全患者が、できるだけ入院することなく安心して地域で暮らせるような社会システムの構築が急がれる。千葉大学大学院薬学研究科の高野博之教授からは、心不全の在宅医療を実践できる薬剤師の育成に向けた取り組みについて紹介いただく。

褥瘡を有する高齢者は在宅や施設に見られ、病院から持ち帰ることもしばしば見られる。そのため褥瘡は地域連携や多職種連携が必要であり、経過観察を含めた薬剤師の関わりが医師や看護師から求められている。愛生館小林記念病院の古田勝経氏からは、在宅褥瘡の外用薬治療と薬剤師視点の重要性についてお話しいただく。

最後の討論では、多様化する在宅業務における薬剤師の可能性を深化させる。

(神谷政幸)

がん化学療法における薬剤師への期待

座長
日本薬剤師会専務理事
磯部総一郎
福岡県薬剤師会常務理事
有吉俊二

厚生労働省は2019年、主な死因別に見た死亡率（人口10万人対）の年次推移を公表している。死亡率1位の死因はこの40年間、悪性新生物（癌）である。この間、癌治療は入院療法から外来療法へ移行してきている。多職種連携、専門医療機関との連携、薬局薬剤師と病院薬剤師との連携など、チーム医療の重要性が注目されている。癌治療に特化した専門医療機関連携薬局の認定が、本年8月から始まった。本分科会では薬局薬剤師と病院薬剤師の連携を通じて、われわれが癌化学療法に責任を持つ有用性を提示する。

基調講演は「国立がん研究センターから見る薬剤師・薬局の状況と期待するもの（病院と研究所の企画経営を統括する立場から）」と題し、国立がん研究センターの中山智紀理事長特任補佐から、最先端の癌研究と癌医療を見渡せる立場から、薬剤師・薬局のあり

方、薬局薬剤師と病院薬剤師に効果的な連携と、薬剤師の専門性や教育のあり方について講演をいただく。

次に、「病院薬剤師・薬局薬剤師・がん治療関連学会への期待」と題し、福岡大学薬学部の新村英利教授から、連携充実加算（病院薬剤師）、特定薬剤指導管理加算2（薬局薬剤師）の業務内容の連携、学会が提案する認定制度について講演をいただく。

さらに病院薬剤師の立場から、茜会昭和病院薬剤部の川崎美紀薬剤部長から、「質の高い外来がん化学療法を目指した連携体制への取り組み」のテーマで、病院や学会等が開催する、病院薬剤師と薬局薬剤師の連携に必要な研修会の重要性について講演をいただく。最後に薬局薬剤師の立場から、長野県薬剤師会会営薬局の村田稔弥主任から「外来がん化学療法における患者サポートおよび薬業連携の充実を目指して～薬局薬剤師の立場から～」のテーマで、癌患者サポート体制および病院との連携構築の報告を講演いただく。

最後に参加の皆様を含め、シンポジストの方々と活発な議論をしたい。

(有吉俊二)

薬剤耐性（AMR）と薬剤師の役割

座長
日本薬剤師会常務理事
橋場元
小倉記念病院薬剤部部長
入江利行

抗菌薬の不適切な使用により、薬剤耐性菌が世界的に増加し、新たな抗菌薬の開発も減少していることが国際的に大きな問題となっている。日本でも、2016年4月に薬剤耐性（以下AMR）対策アクションプランが公表され、薬剤耐性菌の増加を防ぐために、①普及啓発・教育②動向調査・監視③感染予防・管理④抗微生物剤の適正使用⑤研究開発・創薬⑥国際協力——の六つの分野で目標と具体的な取り組みが示された。

このアクションプランはワンヘルス・アプローチの視野に立ち、医療、動物、食品等の専門領域を超えた専門家のネットワークを形成することも含んでいる。その中でも、抗微生物薬の適正使用とその啓発については、AMR対策として医療に関わるすべての者が対応すべき問題である。そして、薬剤師の使命は「薬剤の適正使用の推進」

であることから、この問題に対して中心的に関与すべき職種は薬剤師であるとも言える。

本分科会では、まず、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科統合臨床感染症学分野の具芳明教授にAMR対策の基本と、薬剤師に望まれることについて講演いただく。京都薬科大学臨床薬剤疫学分野の村木優一教授にはAMR対策における保険薬局薬剤師の協働について講演いただく。九州大学病院薬剤部／グローバル感染症センターの中島貴史氏には、自施設の抗菌薬適正使用支援チーム（AST）の専従者としての活動について講演いただく。さくら薬局の大黒幸恵氏には小児に関わる薬局薬剤師として、これまでに実施したAMR啓発活動と市民対象のAMR教育活動について講演いただく。

中津市立中津市民病院薬剤科の上ノ段友里主任には地域で取り組むAMR対策と地域住民への啓発活動について講演いただく。これらの方々の講演から、AMR対策の必要性和共に薬剤師としての役割を理解していただけると幸いである。

(入江利行)



超簡単!!

論文作成ガイド ～『研究』しよう～ 第2版

〔著者〕山浦 克典 鈴木 匡 亀井 美和子 熊谷 雄治
前田 実花 伊勢 雄也 山本 紘司 飯嶋 久志

A5判／188頁
定価 2,200 円＋税

論文作成をイチから始める初心者に最適なガイドブックの改訂版！
「研究テーマの選び方」、「文献の探し方」、「研究データの集め方」、
「研究の発表の仕方」など論文作成に関する研究のはじめから終わり
までの流れや進め方、留意事項などをわかりやすく解説しています。

【改訂のポイント】

- 最新の法規定など研究環境の変化に対応して内容をアップデート
- 新たによくある疑問点を「Q&A」として各章の終わりに掲載

詳細はこちら▶



薬事日報社

書籍のご注文は、オンラインショップ (<https://yakuji-shop.jp/>) または、書籍注文FAX03-3866-8408まで。

改正薬機法に見る今後の薬局、 薬剤師のあり方

座長
日本薬剤師会常務理事
豊見敦
福岡県薬剤師会常務理事
永嶋友洋

医薬品医療機器等法（薬機法）が改正され、「地域連携薬局」や「専門医療機関連携薬局」の認定制度、服用期間中の薬剤師によるフォローアップの義務化が始まり、オンライン服薬指導も可能となったことにより、薬局の位置付けの重要性、対人業務の充実、より一層の薬局機能の強化が求められている。

本分科会では、基調講演として厚生労働省医薬・生活衛生局総務課の安川孝志薬事企画官に「地域連携薬局」「専門医療機関連携薬局」の位置付け、認定制度が出来た背景や今後の薬局、薬剤師の関わりについて講演いただく。

次いで、中外合同法律事務所の赤羽根秀宣弁護士からは、多岐にわたる改

正薬機法の中から、薬局の定義（薬機法 2 条 12 項）を中心に薬機法の改正点について法的視点から講演をいただく。

日本薬剤師会の長津雅則常務理事からは「連携する薬局の機能とは」をテーマに、地域包括ケアシステムの中で核となる薬局と見なされるために「そもそもの薬局機能」を確実に発揮し、すべての医療職、介護職、さらには住民に対して情報を発信する、薬局薬剤師のあるべき姿についてお話いただく。

アップル薬局代表取締役で熊本大学薬学部 of 山本雄一郎臨床教授からは、薬機法改正後に法制化された「薬剤使用期間 of 患者フォローアップ」について実際の症例を交えフォローアップに関する疑問を通して、フォローアップ業務全般についてお話いただく。

最後に、薬機法改正の意味合いや今後の薬局、薬剤師の役割について討論を行っていきたい。

(永嶋友洋)

健康寿命延伸への寄与 ～人生100年時代～

座長
日本薬剤師会副会長
森昌平
福岡県薬剤師会理事
窪田敏夫

2040 年時点で 65 歳の人は、男性の約 4 割が 90 歳まで、女性の 2 割が 100 歳まで生きると推計され、「人生 100 年」が射程に入ってきている。一方、平均寿命と健康寿命は約 10 年開きがあり、この差が拡大すれば、日常生活に制限のある、不健康の期間が延長するだけでなく、医療や介護に関する費用の増大にもつながる。疾病予防と健康増進、介護予防などによって、平均寿命と健康寿命の差を短縮することができれば、個人の生活の質の低下を防ぐと共に、社会保障負担の軽減も期待できる。

本分科会では、基調講演として、「健康寿命延伸における薬局・薬剤師の役割」と題して、日本薬剤師会 of 有澤賢二常務理事から、薬局が健康情報の拠点として、健康サポート機能の一層の充実、機能評価に努めていく必要性がある中、健康寿命延伸における薬局・薬剤師の役割について講演いただく。

次いで 4 人のシンポジストから健康

寿命と密接な疾病についての知識、予防および支援方法について紹介いただく。九州栄養福祉大学リハビリテーション学部の橋元隆教授には、ロコモティブシンドローム（運動器症候群）予防のための運動・体操、サルコペニア（加齢に伴う筋肉量の低下）に対する運動や栄養の介入方法について紹介していただく。

高齢者のフレイルは、多剤併用も要因の一つとされており、原土井病院薬剤部の中道真理子科長には、リハ薬剤（リハビリテーション薬剤）の視点からフレイル高齢者に対する薬物療法支援についてお話いただく。

福岡市薬剤師会薬局七隈店の早田佳生副薬局長には、認知症早期発見のため保険薬局で物忘れチェックの実施に取り組み、認知症疑いを見出し病院へ受診勧奨を行った症例等を講演いただく。

J C H O 九州病院薬剤部の吉国健司副薬剤部長には、心臓リハビリテーションにおける薬学的管理の実際とポイント、入院患者が退院する際の地域連携について紹介いただく。最後の討論を含めて薬局・薬剤師による健康寿命延伸への寄与の一助となれば幸いである。

(窪田敏夫)

医薬品の安定供給

座長
日本薬剤師会理事
一條宏
福岡市薬剤師会常務理事
満生清士

医薬品が安定供給されることは医療の根本であり、国民が安全・安心に健康的に暮らすためには不可欠である。昨今、医薬品の製造における G M P、G Q P 違反による業務停止命令、自主回収等により後発医薬品市場が混乱を招き、医療現場に大きな影響をもたらす事態等が起きている。本分科会では医薬品の安定供給について、専門的な立場から現状や課題、取り組み等について講演していただき、医薬品の安全性確保と安定供給に対する議論をより深めていただく。

基調講演は日本薬剤師会 of 安部好弘副会長より「医薬品の安全確保・安定供給」について、2020 年 9 月に開催された「医療用医薬品の安定確保に関する関係者会議」において of 議論の取りまとめや、新しい概念「安定確保医薬品」の社会的位置づけへの理解、近年の現状、制度的な問題点、医薬品のシームレスな医療供給のための様々な施策構築の必要性などについて講演してい

ただく。
次に青山学院大学 of 三村優美子名誉教授からは「医薬品の安定供給と流通機能の高度化」について医薬品流通を取り巻く変化や抱える問題点と今後どのような流通機能や仕組みづくりが必要なのかなど、新しい流通問題への課題と取引制度改革の必要性について講演していただく。

日本製薬団体連合会品質委員会 of 大久保恒夫委員長からは「医薬品の安定供給について」日本製薬団体連合会および製薬企業が医薬品の安定供給確保をするために行っている組織づくりや情報提供、ガイドライン等の作成など様々な取り組み等について講演していただく。

最後に日本医薬品卸売業連合会 of 一條武副会長からは「医薬品安定供給における医薬品卸の現状と役割」として、日本における医薬品の多品種少量生産の弱点による出荷調整など、医薬品の流通の現状と問題点、サステナビリティの強化、医薬品卸 of 新たな社会的価値観の創出に向けて of ビジョンの策定など取り組みについて講演していただく。

(満生清士)

一般用医薬品等の流通と適正使用

座長
日本薬剤師会理事
大原整
福岡県薬剤師会常務理事
原口恵子

改正薬機法において「薬局は全ての医薬品を安定的に供給し、薬剤師が医薬品の適正使用に必要な情報提供及び薬学的知見に基づく指導の業務を行う場所」と薬局の定義が改められた。本分科会では、法律に駆われる薬局がどのようなものなのか、薬剤師、薬局が取り組むべきことは何かを考える。

基調講演は「要指導医薬品・一般用医薬品と薬局・薬剤師」と題し、日本薬剤師会 of 岩月進常務理事から、改正薬機法で必須となった一般用医薬品の販売において、薬局、薬剤師が、今すべきことは何かについて講演いただく。

次いで「国民皆保険制度を護るセルフメディケーション～セルフメディケーションの日シンポジウム 2020 から～」と題し、日本 O T C 医薬品協会の川瀬一郎薬制常任委員から「セルフメディケーションの日シンポジウム 2020」 of 基調講演内容の紹介と共に、

国民皆保険制度を護るために医療資源を有効に使う必要があり、そのためにセルフメディケーションが果たせる可能性や課題について講演いただく。

また、日本中毒情報センターつくば中毒 110 番 of 高野博徳施設次長から、「日本中毒情報センターの役割と一般用医薬品の適正使用への寄与について」と題し、中毒情報センターに寄せられる相談事例の分析により見えてくる、医薬品適正使用に果たす服薬指導の重要性について講演いただく。

最後に、福岡市薬剤師会 of 福岡英樹氏から「保険薬局中心の薬局が一般用医薬品に取り組むために～『かつて薬剤師は”町の科学者”と呼ばれていた』を考えてみる～」と題し、医薬分業が進むことで薬局の機能が変化している中、演者自身の経験と、今と昔の薬局を分析することで見えてきた、薬局が取り組む課題について講演いただく。

薬剤師、薬局を取り巻く環境が大きく変わってきていると感じる。オール薬剤師で目指すべきベクトルを共有できると幸いである。

(原口恵子)



薬局実務実習に行く前に 知っておきたい 法律知識

著者：白神 誠 A5 判 / 203 頁 / 定価 2,200 円 (本体 2,000 円 + 税 10%)

薬事日報社 書籍のご注文は、オンラインショップ (<https://yakuji-shop.jp/>) または、書籍注文 FAX 03-3866-8408 まで。

「薬学生」「指導薬剤師」に役立つ！

薬学生が実務実習に向けて知っておくべき法規・制度の知識を会話形式でわかりやすく解説。実務の内容と関連する法律を結びつけた学習ができる。

POINT

- 実務に沿った会話形式で解説することで、その場面を思い描きながら学べる。
- 項目ごとに要点をまとめた「Key points」を記載し、知識の整理ができる。



詳細・購入はこちら



新型コロナウイルス感染症の予防接種加速には薬剤師の協力が必要不可欠となっている。集団接種会場で主に薬液充填・接種補助などの業務に奮闘するほか、予診・接種のみならず接種後の状態観察、検温や受付・記録などの業務についても市町村などの事情・状況を踏まえ、各地域の医師会や病院薬剤師会などと連携を進めている。

福岡県薬



希釈・充填などの作業に参加

専門性生かして貢献



10回分充填可能なモデルナ製ワクチン

福岡県薬剤師会でもワクチン接種体制構築に協力を行ってきた。8月末で全国の新型コロナウイルス感染症ワクチンの総接種回数は約1億2400万回となり、2回接種完了者は4割を超えているが、福岡県内でも4割近くが2回



ファイザー製ワクチンは1バイアルから6回分充填が可能

接種を完了している。福岡市内にある集団接種会場でも多くの薬剤師が希釈・充填などの作業に参加した。ファイザー製ワクチンでは、ワクチンを生理食塩水で希釈し、薬液を1人分ずつシリンジに調製していく。こうした作業を何度も繰り返す。厚生労働省の検討会で薬剤師はワクチンの打ち手としては当面見送りとなり、ワクチン調製や予診のサポート、接種後の経過観察などを担うとされた。厚労省は安全で迅速なワクチン接種体制を構築していくためには、ワクチン接種の担い手を確保することにより、予診のサポートやワクチン調製などの業務を担う人材を確保することが先決との認識を示している。薬剤師の専門性を生かせる場面で大きな貢献を果たしている。

MITSUBISHI ELECTRIC
Changes for the Better

Anniversary

指導内容を
一画面に集約

雛形利用で
効率的な
薬歴記載

薬歴
作成時間が
約半分に!

SY-POS2 (服薬指導支援テンプレート) で薬局の未来を支える

保険薬局システム

調剤 Melphin®/DUO
メルフィン・デュオ

インターネットサービス

Q メルフィン

検索

<https://www.mdsol.co.jp/melphin/>

三菱電機 ITソリューションズ株式会社 **MDSOL**

当ファイルの著作権は(株)薬事日報社またはコンテンツ提供者に帰属します。当ファイル(印刷物含む)の利用は私的利用の範囲内に限られ、それ以外の無断複製・無断転載・無断引用はご遠慮ください。当ファイル(印刷物含む)を社内資料、営業資料などでご利用される場合はご相談ください。

株式会社薬事日報社 TEL:03-3862-2141 shinbun@yakuji.co.jp <http://www.yakuji.co.jp/>

きづき調製作業

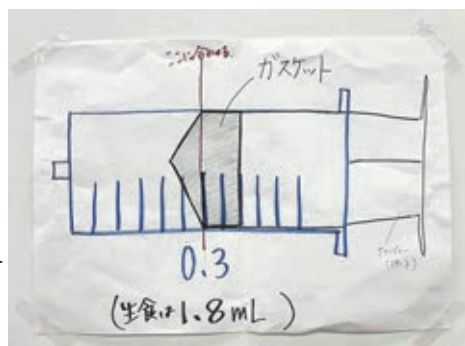


会場では、医療者がチームとなって作業を行う。



集団接種でのワクチン調製業務に向け、多くの薬剤師が研修に参加

各工程を全てダブルチェック



充填量は0.3mLと一目で分かるよう掲示してある



ワクチン監査業務

ワクチン接種会場で薬剤師が希釈・充填等の調製作業を適正に実施するために、それぞれの会場に則した手順書・チェックリストを作成し、定めた手順から逸脱した作業を行わないよう運用している。複数人によるダブルチェックを必ず行い、適正な調製を行うようにしている。

調製前には、温度管理を適切に行うこと、ワクチン原液の数量管理を実施する。調製作業時には必要な希釈用生理食塩液、シリンジ、針、トレイ、アルコール綿などの資材が、正しいものが必要数用意されているか複数人で確認し、調製者自身が確認しながら作業を行うと共に、各工程の作業開始前、および作業終了時のタイミングで、必ず調製者以外の薬剤師がダブルチェックを行う。そして調製終了後には、使用期限を明確にし、

適切に保管(温度、遮光)することとしている。集団接種会場での薬液充填作業は、各区市町村薬剤師会が中心となり研修が実施された。



集団接種会場の受付

医療をつなぐ。
社会をつなぐ。

ICTの力で薬局から新しいヘルスケアのあり方を発信していきます。

調剤業務の生産性を向上

電子薬歴レセコン一体型システム



P-CUBE n

頭書きとの連携で、スピーディーに薬歴が完成。頭書き入力・更新を行うことで薬歴へ転送され、効率化を実現します。薬剤別指導ガイダンス機能を活用し、継続的な薬学管理を支援します。



株式会社ユニケソフトウェアリサーチ

TEL. 03-6747-0030

<https://www.unike.co.jp/product/pharmacy/>



Smart Pharmacy
どんなときにも、つながっている。

経営管理&在庫を最適化

クラウド型 新本部管理システム



複数店舗の経営管理機能と在庫最適化機能を備えた、低コストで薬局経営の可視化を図るクラウドサービスです。



LINEで服薬フォローアップを推進

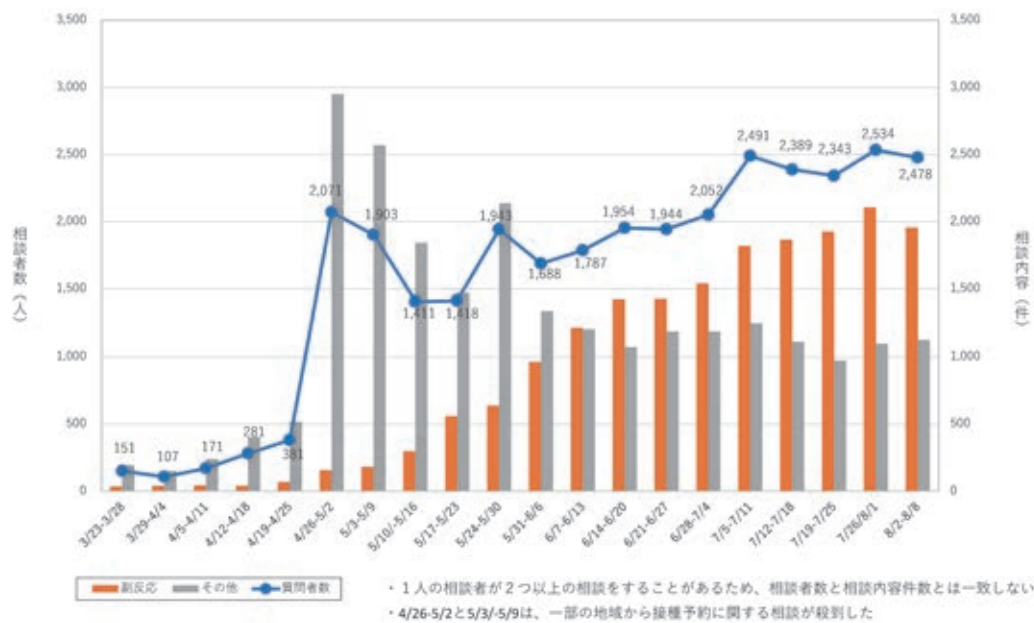
患者服薬フォローサービス



LINEを活用して患者さまと薬剤師の負担を軽減。継続的なフォローアップの実現は、患者さまの服薬期間中の安心にもつながります。
※特許出願中(特願2019-140708)
※「フォロナビ」は株式会社ユニケソフトウェアリサーチの登録商標(第6351964号)です。
※「LINE」はLINE株式会社の商標または登録商標です。



福岡県新型コロナウイルスワクチン専用ダイヤル相談受付状況 (2021/3/23~8/8)



ワクチン専用ダイヤル

副反応など相談に対応



福岡県・福岡県薬剤師会

新型コロナウイルスワクチン専用ダイヤル

〇ワクチンの副反応等に関するご相談
〇ワクチンの有効性・安全性に関する情報提供
〇副反応発生時の対応に関するアドバイス
〇ワクチンの保管・管理に関する情報提供
などの専門的相談

薬剤師が対応いたします!!

【受付時間】
24時間 (4月1日より)
※3月までは9:00-18:00
(土日・祝日も実施)

0570-072972
※通話料がかかります



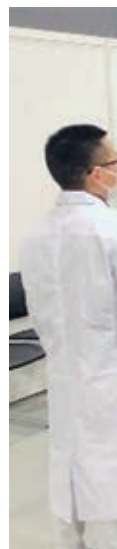
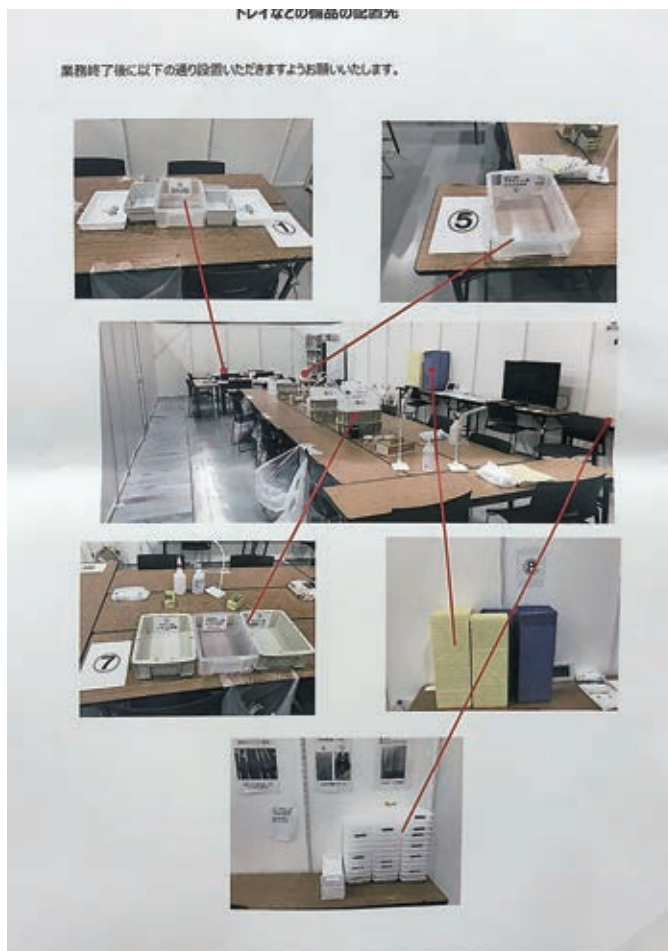
福岡県薬は3月、県からの依頼で新型コロナウイルスワクチン専用ダイヤルを開設した。専門的な知識を有する薬剤師が新型コロナウイルスワクチン接種後の副反応など、医学的知見が必要な専門的な相談に対応している。

副反応に関する相談のほか、ワクチンの有効性・安全性に関する情報提供、ワクチンの保管・管理に関する情報提供を行う。県民のみならず、医療従事者からの問い合わせにも土日・祝日を含めて対応し、24時間体制で常駐している。

相談受付は増加傾向にあり、1週当たりの質問者数は約2500件、質問件数は約3000件に達している。そのうち、副反応に関する相談は1週当たり2000件も寄せられ、8月8日までの延べ人数で質問者数は3万1497人となっている。

手順書に基づ

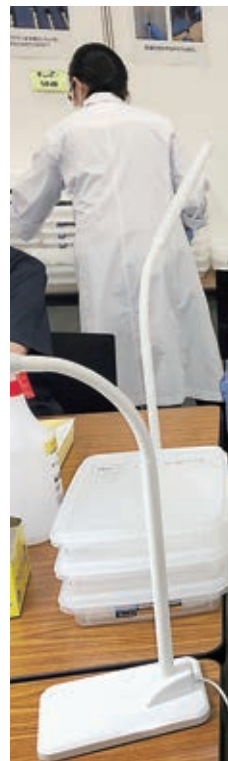
トレイなど備品の配置も細かく決められている



接種会場で対応する



接種直前まで、接種用シリンジに充填したワクチンの品質を確保するため、保管場所の室温をチェックする



Next Value! 取り間違いなく安全に。 ピッキング業務は新たなステージへ。



自動薬剤ピッキング装置

DrugStation



✓大阪本社ショールームにて実機をご覧いただけます。
また、Zoom※を使用し、弊社大阪ショールームを繋いだWEB見学会も実施しています。
お申し込みについてはQRコードからアクセスして下さい。

※Zoomは、Zoom Video Communications, Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

薬品トレイの組み合わせ次第で
約1,200種(約3,000箱)※の薬品搭載可能!

※本体幅3.6m、ピッキング台1台構成時の場合(左記写真)。本体幅は最小2.7mから最大7.2m、ピッキング台は2台まで増設可能となります。詳細はお問合せください。



Easy 簡単に!

高速で目の前に現れてくるトレイから薬品をピッキングするだけ。



Safety ミスなく!

トレイ搭載薬品に応じて、シャッターが必要なみ開から取り間違いの心配無し。



Almighty 幅広く!

搭載薬品種はPTPシート/軟膏/点眼/漢方等、ピッキング可能な薬品が対象。



Your Partner in Medication
yuyama

オンライン上で
DrugStationの
操作や動作について
ご体験頂けます。

当ファイルの著作権は(株)薬事日報またはコンテンツ提供者者に帰属します。当ファイル(印刷物含む)の利用は私的利用の範囲内に限られ、それ以外の無断複製・無断転載・無断引用はご遠慮ください。当ファイル(印刷物含む)を社内資料、営業資料などでご利用される場合はご相談ください。

株式会社薬事日報社 TEL:03-3862-2141 shinbun@yakuji.co.jp http://www.yakuji.co.jp/

錠剤棚など調剤関連設備を車内に設置



モバイルファーマシーでは外部電源も用意する



福岡県薬では災害医療への対応も進めている。1月には災害発生時、避難者等に迅速・的確に医薬品を届けるために、モバイルファーマシー(災害対応医薬品供給車両)を導入した。

災害時司令塔となる福岡県、医薬品や燃料を備蓄する福岡県医薬品卸業協会、被災地で調剤する薬剤師を派遣する福岡県薬の3者で運用協定を締結した。自治体、県薬剤師会、卸団体が連携した形で

モバイルファーマシーの運用スキームを整備するケースは全国初の取り組みだ。

県薬卸協会の会員の営業所にモバイルファーマシーを保管し、災害時には、県の要請により医薬品を搭載して、県薬の薬剤師が乗務の上、被災地へ出動し、避難所等で調剤を行う。

車両は、県薬がベースとなるトヨタカムロード4WD/4AT(3000ccターボディーゼル、定員3人)を約

1500万円で購入。県から半額補助を受けた。

車内には、水回り、錠剤棚、電子天秤、分包機、冷蔵庫等の調剤関連設備を設置し、電源はポータブル発電機、ソーラーパネル、外部電源接続の3種類を用意。デジタル簡易無線機やアンテナを装備し、被災地でも無線基地として通信手段を確保できる。

モバイルファーマシーの導入は、県では2回目となる。

県、卸と移動薬局の運用協定



被災地へ出動し、避難所等で調剤を行う

ソーラーパネルも備え、無線基地として通信手段を確保

災害医療に対応



災害用テントの設置訓練も行っている

Connect Report

現場薬剤師が作った

薬歴アプリ

Connect Report



Point1 シンプルな画面構成で「これさえあれば」を実現

- 医薬品の相互作用や疾患と医薬品の監査情報が表示されます。
- 処方変更が色付きで表示され、変更点が瞬時に確認可能。

Point2 薬剤師が求める「あると便利」な業務効率化機能を多数搭載

- 薬品名をクリックすると添付文書(PDF)の閲覧がすぐに可能。
- バイタルや検査値を一覧で確認できるので患者様の変化を見逃すことなく服薬指導を行うことができます。
- 処方薬についての指導例文が薬歴記載画面に常に表示。ハイリスク薬の指導等に必要の内容をいつでも簡単に参照・引用することができます。
- 処方日数にカーソルを合わせると、その薬の服薬終了予定日がポップアップ。受診間隔や薬の切れるタイミングが一目で確認できます。(※PC版のみ)

Point3 ペーパーレスを実現した薬歴

- トレーシングレポートや医療機関からの情報提供書類など、患者様に関わる紙の書類は全てクラウド保存することができます。
- 患者様の住所から地図アプリと連携することにより、お届けなどスムーズな対応ができます。
- 次回来局予定日及び投薬後のフォロー予定日について、カレンダー画面による一覧確認が可能。在庫管理やフォロー管理に役立ちます。

Point4 在宅支援システムが充実

- 薬歴から1クリックで報告書を自動作成。薬歴記載・報告書作成の二度手間を解消。
- グループ管理機能により施設管理もらくらく。
- カレンダー機能で訪問予定も簡単管理。
- 写真機能を用いて画像で患者様の状態や特記情報を共有することが可能。

サービス提供元

株式会社 C.Medical (シー・メディカル)

<https://www.c-medi.co.jp>
<https://youtu.be/LLAybQBrCyM>


オンラインでも気軽にお問い合わせ頂けます。

[URL https://www.c-medi.co.jp/contact/](https://www.c-medi.co.jp/contact/)


当ファイルの著作権は(株)薬事日報社またはコンテンツ提供者に帰属します。当ファイル(印刷物含む)の利用は私的利用の範囲内に限られ、それ以外の無断複製・無断転載・無断引用はご遠慮ください。当ファイル(印刷物含む)を社内資料、営業資料などでご利用される場合はご相談ください。

株式会社薬事日報社 TEL:03-3862-2141 shinbun@yakuji.co.jp <http://www.yakuji.co.jp/>

健康サポート薬局の将来

座長
日本薬剤師会地域医薬品提供体制
対策委員会委員長
福岡市薬剤師会会長

高田弘子
田中泰三

2015年「患者のための薬局ビジョン」が策定され、薬剤師・薬局のあるべき姿が示された。本ビジョンは、患者本位の医薬分業の実現に向けて、かかりつけ薬剤師・薬局の本来の姿を明らかにすると共に、中長期視野に立って、現在の薬局をかかりつけ薬局に再編する道筋を提示するものである。本ビジョンの流れを汲み、16年に健康サポート薬局の認定制度が始まった。

健康サポート薬局とは、厚生労働大臣が定める一定基準を満たしている薬局として、かかりつけ薬剤師・薬局の機能に加えて、市販薬や健康食品に関することはもちろん、介護や食事・栄養摂取に関することまで気軽に相談できる薬局のことである。また、健康サポート薬局は安心して立ち寄り易い身近な存在として、多職種と連携し、地域住民の相談役の一つとしての役割を果たすことが求められている。

本分科会では、基調講演として、国の立場から厚生労働省医薬・生活衛生局担当官に「健康サポートに向けたこれからの薬局像」と題し講演いただく。認定制度としての「健康サポート薬局」だけに捉われず、健康サポートという角度から今後の薬局の目指すべき将来像を示していただく。

続いてシンポジスト3人による、それぞれの切り口による健康サポート薬局の将来を提案していただく。まずは、日本薬剤師会地域医薬品提供体制委員会の山田武志副委員長による、「健康サポート薬局の現状と今後の課題～薬機法改正を踏まえた健康サポート薬局の将来～」を、次に埼玉県薬剤師会の宮野廣美常務理事による「かかりつけ機能と健康サポート機能の2つの機能で住民の健康を守る」を、最後に福岡県薬剤師会の小田真穂専務理事による「患者から選択される薬局機能強化事業―患者目線からの調査分析―」を講演いただく。薬機法改正後における健康サポート薬局のあり方や将来像、今後の課題について議論を深めていき、何等かのアンサーを導き出したい。

(田中泰三)

地域に根ざした薬局の新たな取り組み

座長
日本薬剤師会常務理事
福岡県薬剤師会理事

長津雅則
石井裕太

改正薬機法により薬局は調剤業務を行う場所ではなく、薬に関する情報提供と指導を行う場所として定義され、医薬品を渡すだけの対物業務から情報提供やフォローアップも含めた対人業務へ大きくシフトしていった。世間に目を向けると、インターネットの普及によりネットを通じて容易に様々な医薬品情報等が誰にでも引き出せる現在、その情報を正しく精査し正確に情報提供できるのは薬剤師しかいない。

本分科会では、基調講演として「目指すべき薬剤師・薬局の姿」と題し日本薬剤師会の田尻泰典副会長に、改正薬機法をベースに、薬剤師が本来の役割を果たし、地域の患者を支援するための医薬分業の今後のあり方について講演をいただく。

次に「コミュニティファーマシー（地域に根ざした薬局）の取り組み」と題し日本コミュニティファーマシー協会の吉岡ゆうこ代表理事から、健康サポート機能を有しているドイツの薬

局事情と日本の薬局機能を融合し、地域に根ざした新たな薬局作りの取り組みについて紹介していただく。

次に「薬局についてみんなで考える」と題し薬局支援協会の竹中孝行代表理事から「みんなで選ぶ薬局アワード」を設立した経緯や、全国の薬局の様々な先進的取り組みを紹介する活動について報告していただく。

次に「小さな薬局のニッチャー戦略～コンテンツマーケティングの紹介～」と題してA K A N E株式会社はなのゆ薬局の中山茜代表取締役役役に一人薬剤師の小さな薬局でも地域に特化し薬を提供するだけでなく、コンテンツマーケティングの考え方を取り入れ、薬局経営を成り立たせている事例を報告していただく。

最後に「24時間対応薬局の役割と業務」と題し八幡薬剤師会の大石博美理事から、24時間年中無休の無菌調剤室を完備した薬局としての役割と、今後の進むべき方向性について紹介していただく。

その後シンポジストの先生方を交え参加者の皆様で地域に根ざした新たな薬局づくりと薬剤師について討論することとしたい。

(石井裕太)

災害時の薬剤師の役割

～体制整備と支援活動～

座長
日本薬剤師会理事
福岡県薬剤師会理事

山田卓郎
仙敷義和

大規模災害発生時に備え、各都道府県薬剤師会は災害対応マニュアルや、緊急事態に対する業務継続計画（BCP）を策定されていることと思われる。被災地では、災害医療ボランティアによる支援活動において薬剤師の果たす役割は重要となっている。

本分科会では災害時における薬剤師の役割について、被災地がどのように体制を整備するのか、災害支援に参加する薬剤師がどのように支援活動を行えばよいのかについて、体験談を交え講演いただく。

基調講演では、「大規模災害時に求められる薬剤師の役割」と題して、福岡大学薬学部臨床薬学研究室教授であり、災害医療コーディネーターの資格を有する江川孝氏から、薬剤師が被災地でどのように他職種と連携をとり、その役割が発揮できるのかについて講演いただく。

次いで、宮城県薬剤師会の高橋文章常任理事から「医薬品の流通と体制整

備」と題し、10年前の震災時における災害派遣での他職種連携等の課題について、また2019年台風19号による災害派遣でどのように連携改善や進歩があったのかについて講演いただく。

次いで、熊本県薬剤師会の寺元米一常務理事から「コロナ禍での災害支援活動」と題して、昨年7月新型コロナウイルス感染症拡大期に起きた豪雨災害時の薬剤師による支援活動について、体験をもとに浮かび上がったコロナ禍での災害支援時の問題点や課題について講演いただき、また熊本地震後に購入したモバイルファーマシー（MP）を活用した支援活動についても紹介していただく。

最後に、大分県薬剤師会の伊藤裕子理事から「大分県薬剤師会におけるMPの活用」と題して、7年前に購入したMPによる2回の活動実績（熊本地震時・九州北部豪雨）での経験や課題、また平時での活用方法等について講演いただく。

今回の各演者の所属薬剤師会（福岡・宮城・熊本・大分県）はMPを所有している。今後MPの導入を検討している県、地区は質問を積極的にぜひ行っていただきたい。

(仙敷義和)

座長
日本薬剤師会副会長
福岡県薬剤師会薬事情報センター
室長

川上純一
神雅子

薬機法の改正により薬局の定義が改正され、薬局は「調剤の業務を行う場所」に加えて「薬剤及び医薬品の適正な使用に必要な情報の提供及び薬学的知見に基づく指導の業務を行う場所」であることが明確にされた。また、認定薬局制度においては、地域の医療提供施設に対して医薬品の適正使用に関する情報を広く提供し、地域の医薬品情報室としての役割を果たすことが求められている。

病院薬剤師による情報提供に、情報管理の場としてD I 室が必要のように、今後地域医療の中で薬局の機能を発揮させるためには、薬局薬剤師のD I 活動の充実が求められる。I C Tの進展により、医療従事者や患者が扱える情報量は飛躍的に増大したが、薬剤師は最新の情報を入手・評価し、患者や医療従事者などの対象者に応じて、的確な情報を提供することが求められる。

本分科会では、基調講演として、「医薬品情報の特性と情報源―情報リテラシー力を高める―」と題し、熊本大学大学院生命科学研究部（薬学系）の山本美智子客員教授に、情報を使いこなすための基本的な情報検索の手順や探し方の概説と、医薬品情報の現状や課題および今後の展望について講演いただく。

医薬品医療機器総合機構（PMDA）の田島康則課長には、PMDAが提供している医薬品情報の利活用のために、医薬品情報の種別の特徴や入手方法について、杏林大学医学部付属病院薬剤部の若林進薬剤科長には、病院薬剤師のD I 業務として、D I 業務のI C T化やリスクマネジメント、A I への展望について講演いただく。

さらに、薬局薬剤師の立場としてパスカル薬局の横井正之氏からは、「薬学6年制下における薬局薬剤師の医薬品情報活用の事例とその意義」と題して、事例をもとに、それぞれの医薬品情報を臨床現場でどのように活用するかお話しいただく。最後に今後薬剤師が、地域医療の中でD I 活動をどのように行っていくか討論したい。

(神雅子)

薬局から研究を発信しよう！

著 尾関 佳代子 (薬剤師、医学博士) A5判/158頁/定価2,420円 (本体2,200円+税)

薬局薬剤師として活躍する傍ら、大学で研究を続ける著者の体験に基づき、「研究を行う意義」「研究の始め方」「学会発表」「論文作成・掲載」などについてわかりやすく解説。

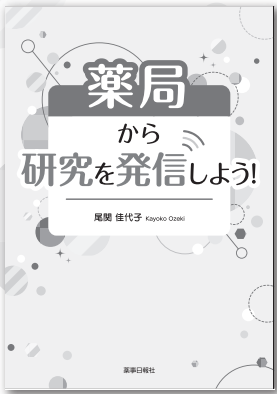
- 「疫学・統計」の基礎をやさしく解説！
- 研究の進め方をイメージできる！
- 論文掲載までのプロセスがわかる！

薬事日報社

書籍のご注文は、オンラインショップ (<https://yakuji-shop.jp/>) または、書籍注文FAX03-3866-8408まで。

当ファイルの著作権は(株)薬事日報社またはコンテンツ提供者者に帰属します。当ファイル(印刷物含む)の利用は私的利用の範囲内に限られ、それ以外の無断複製・無断転載・無断引用はご遠慮ください。当ファイル(印刷物含む)を社内資料、営業資料などでご利用される場合はご相談ください。

株式会社薬事日報社 TEL:03-3862-2141 shinbun@yakuji.co.jp <http://www.yakuji.co.jp/>



セルフメディケーションと薬局製剤・漢方薬～健康長寿のために、日本の食と漢方について考えよう！～

座長
日本薬剤師会常務理事
高松登
九州大学大学院薬学研究院准教授
島添隆雄

現代社会の複雑化に伴い、様々な問題が浮き彫りになってきている。われわれは進歩・進化に身を委ねる一方で、改めて原点に戻り、健康長寿のためにも古き良き時代を見直す必要がある。

健康の基本の一つに食がある。しかしながら、現代の農業や食生活の変化が、必ずしもすべて良い方向へ向かっているとは言えない。例えば、農薬、化学肥料などにより、安全な食が失われつつある。また、農業技術の進歩により、「旬」という文字が消え、野菜や果物などの栄養価も大幅に低下してきている。

さらに、日本の食が、食文化として世界に誇れる和食から欧米食へと変化し、高カロリー・高脂質の食事により、さまざまな疾患を誘発するようになってきた。これらのことが、日本は世界一の長寿国でありながら、健康寿命はほとんど延びていない要因となっている可能性も否定できない。

一方、生薬を構成成分とする漢方薬

も、見直されるべき良き機会にきている。コロナ禍においても、漢方薬の効果、有用性が提唱されている。また、漢方薬の作用機序も科学的に証明されるようになってきた。漢方治療は、古来より食と直結していることもあり、本シンポジウムでその役割を再認識できると考える。

本分科会では、食および漢方のスペシャリストを招いた。まず、飯塚病院漢方診療科の田原英一郎長に、和食と玄米採食による治療について紹介していただく。次に菌ちゃんふぁーむの吉田俊道氏より、菌ちゃんふぁーむでの無農薬有機野菜作りで体調が改善される経験を話していただく。

また、九州大学の比良松道一准教授には、「弁当塾」という大学における実践的な食育教育の意義について講演していただく。最後に、日本薬剤師会薬局製剤・漢方薬委員会の八木多佳子委員長から、薬局製剤を提供する際に併用された食養生について紹介していただく。

以上のように、各演者に幅広い角度から講演していただき、総合討論も行うことで、食および漢方の重要性への理解が深まり、極めて有意義な分科会となることが期待される。

(島添隆雄)

薬剤師が支えるスポーツの価値

座長
日本薬剤師会理事
清水大
福岡県薬剤師会理事
清水敦

スポーツには素晴らしい価値がある。心身の健全な成長・発達、ルールやフェアプレー精神を守る、仲間への信頼や他者を尊重する姿勢、私たちはスポーツを観ることでそのような素晴らしい価値を感じ、とても大きな感動を与えてもらっている。

一方でそのような価値に反するような行為や事件なども起こっている。スポーツに携わる者がスポーツの価値を支えていくために何を考え行動していかなければならないのか、この分科会では各分野における日本の第一人者をお招きし、各々の専門職としてのスポーツの価値を守り支えるためのお話をしていただく。

基調講演としてスポーツ・コンプライアンス教育振興機構の武藤芳昭代表理事から、スポーツ医学の一分野としてのスポーツ・コンプライアンスの理念と、社会での活動、薬剤師の積極的な関わり方についてお話しいただく。

続いて3人のシンポジストにご登壇いただく。健康リハビリテーション内田病院の内田泰彦院長からスポーツドクターとしての道を歩みだしたきっかけと、世界水泳選手権、オリンピック・パラリンピック帯同、福岡ソフトバンクホークスのチームドクターとしての経験からのスポーツファーマシストへの想い、連携について、A・N・D・Uの吉村俊亮代表取締役からサッカーの香川真司選手など世界で活躍するトップアスリート専属サポートの経験などから、管理栄養士・スポーツトレーナーとしての活動について、黒田薬局の松島美菜氏からご自身が水泳日本代表選手として出場したロンドンオリンピックと、そこに至るまでのアスリートとしての経験、現在薬剤師としてアスリートを守る立場から、スポーツの価値を支えるためにできる事についてお話いただく。

最後は演者の方々と総合討論を行う。スポーツの価値を支えるために、多職種連携の中で何を考え行動していくべきか、この討論を日本の新たなスポーツ業界を構築するためのキックオフミーティングとしたい。

(清水敦)

寄り添う医療とコミュニケーション～言語コミュニケーション障害への対応～

座長
日本薬剤師会常務理事
亀井美和子
福岡県薬剤師会常務理事
田城涼子

日々の業務でコミュニケーションの取り方に苦慮した薬剤師も多いのではないだろうか。

日本において、65歳以上が人口の約3割を占め、高齢化が進展しており、そのうちの4分の1が難聴者、6分の1が認知症有病者といった統計も出ている。加齢に伴い、服用する薬の種類が増えてくる傾向にある中、難聴者や認知機能が低下した高齢者に対し、良好なコミュニケーションが求められている。

また、症状や置かれている環境は人によって大きく異なり、その多様性や状況、ヘルスリテラシーに合わせて医療や情報を提供することが重要である。

本分科会では、聴覚障害や認知症の患者とのコミュニケーションのあり方について考えていく。

基調講演として、東京通信病院病理診断科の田村浩一医師に「難聴者から見た薬剤師に求められるコミュニケーション」と題し、講演いただく。田村

医師ご自身も遺伝性の聴覚障害をお持ちで、40歳ごろから症状が進んだとのこと。聞こえる立場から、逆の立場になったからこそ見えてくる課題や疑問を示し、また薬剤師に求める対応についてお話いただく。

次に国立病院機構東京医療センターの本田美和子総合内科医長からはマルチモーダル・コミュニケーション・ケア技法のひとつである「ユマニチュード（特に高齢者と認知症患者において有用とされている包括的ケアメソッド）」の基本や技術要素、成果について講演いただく。

最後に第一薬科大学地域医療薬学センターの依口奈穂美教授からは、薬剤師と聴覚障がい者を対象とした、服薬指導のコミュニケーションに関するアンケートから見えてきた認識の違いや、問題点について紹介いただき、薬剤師に何が求められていくのか一緒に考えていく。

コロナウイルス感染拡大によるマスクの着用や、時限的・特例的な取り扱いである0410対応など、コミュニケーションが取りづらい環境の中、本分科会が高齢者や聴覚障がい者だけでなく、様々なシーンで活用できるヒントとなれば幸いである。

(田城涼子)

くすり教育活動における学校薬剤師の役割

座長
日本薬剤師会常務理事
富永孝治
福岡県薬剤師会副会長
宮谷英記

セルフメディケーションを推進する動きが強まっている。このような状況に対して、国民は医薬品に対する正しい知識を得ることが求められ、中高生には医薬品の適正使用に関する基礎知識の定着を目指す「くすり教育」が実施されている。本分科会では「くすり教育」と「薬物乱用防止教育」の両面から、学校薬剤師が今やるべき役割について掘り下げたい。

「健康・安全に向けた薬育と学校薬剤師への期待」として文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課の小出彰宏健康教育調査官による基調講演では、医薬品に関する教育が行われた割合は中学校で57.8%、高等学校で65.1%であり中学校で医薬品に関する教育が始まって約10年になるが、全ての中学校、高等学校で実施されていないことの原因などについて講演いただく。

次に「薬物乱用の現状と薬物乱用防

止教育一大麻等について一」として愛知県学校薬剤師会の木全勝彦代表理事に薬物乱用防止教育について、従来型の薬物乱用の恐ろしさを強調するのではなく、なぜダメなのかを医学、薬学および法律との関係性など総合的な正しい情報を青少年に伝え、自ら考えさせることや、身近な医薬品、医薬部外品、食品（清涼飲料水等）等の不適切使用等について講演いただく。

次に「子どもたちの健康のためのくすり教育」としてくすりの適正使用協議会の依木登美子理事長から同協議会が行っているくすり教育の支援について、くすり教育のための各種教材を作成提供、授業に活用できる模型などの貸し出し事業、くすり教育を行う先生方を対象とした、授業の構成例や活用できる各種資料の紹介などを行う出前研修など、学校薬剤師の活動を支援されている現況等について講演いただく、最後は討論会を行う。

本分科会を通じ、学校薬剤師の「くすり教育」が児童、生徒、学生の生涯を通じ、自分の健康と病気の治療に役立てることの出来る力を養う教育になるものと確信している。

(宮谷英記)

薬事日報の好評連載コラムを書籍化！

地域医療における
薬剤師のあるべき姿を
考えるための一冊！

薬剤師の未来進行形
対物業務を超えて、世界標準の薬局を目指して—

若子 直也 著
四六判/186頁
定価 2,200 円
(本体 2,000 円+税 10%)

詳細・購入はこちら▶



薬事日報社

当ファイルの著作権は©薬事日報社またはコンテンツ提供者者に帰属します。当ファイル(印刷物含む)の利用は私的利用の範囲内に限られ、それ以外の無断複製・無断転載・無断引用はご遠慮ください。当ファイル(印刷物含む)を社内資料、営業資料などでご利用される場合はご相談ください。

株式会社薬事日報社 TEL:03-3862-2141 shinbun@yakuji.co.jp http://www.yakuji.co.jp/

始まった新たな薬局認定制度

現場薬剤師の受け止め方は

改正薬機法に基づく新たな薬局認定制度が8月から始まった。地域の医療機関と一元的で継続的な情報連携を行って質の高い薬学的管理を実践する「地域連携薬局」と、癌等の患者に対して他施設と連携しながら高度な薬学管理や特殊な調剤を

行う「専門医療機関連携薬局」の二つを各都道府県の知事が認定するもの。法に紐づいた制度としてこれからの薬局のあり方を示しているが、現場の薬局薬剤師は「どう受け止めているのか。認定を取得した薬局を取材した(19〜21ページ)」と語る。

将来の薬局選別を意識

進行堂薬局本店(大阪市)

8月1日付でいち早く地域連携薬局の認定を取得した進行堂薬局本店。大阪市東住吉区に5薬局を展開する有限会社進行堂が、近鉄矢田駅前の商店街の一角に約30年前に最初に構えた薬局だ。店内の半分のスペースを割いて一般医薬品や日用品を販売するエリアを設けるなど、昔ながらのパパママ薬局の雰囲気を色濃く残している。

同日付での認定取得は東住吉区では2薬局のみ。進行堂取締役で本店の管理薬剤師を務める竹内由香里氏は「昨年、地域連携薬局という枠組みが設けられることが決まった時から、認定を取得しようと考えていた」と振り返る。

現時点で認定取得によるメリットがあるとは考えていない。地域連携薬局をことさらに大きくアピルするつもりもないという。それでも直ちに認定取得に踏み切ったのは、東住吉区薬剤師会副会長を務める立場から、「認定取得について会員から質問を受けた時に、自ら取得していればすぐに回答できる」との実務的な理由が大きい。

地域連携薬局の認定は比較的スムーズに取得できた。これまでに調剤基本料の地域支援体制加算の体制を整備し、健康サポート薬局の認定も取得した。地域連携薬局の認定要件の多くはこれらの

要件と重なるため、大きな苦労はなかった。膨大な資料の提出が求められた健康サポート薬局の認定取得に比べると、必要な申請資料の量は半分以上で済んだという。

要件の一つとして設定された他の医療機関への月平均30回以上の情報提供実績が認定取得のハードルになると言われているが、「普通に薬局薬剤師の仕事をしていれば、疑義照会以外に1日数件の連絡はしている」と由香里氏は話す。

認定取得にあたって新たに取り組んだことは、無菌調製に対応できる体制の整備だ。大阪府薬剤師会の無菌調製に関する研修をオンラインで受けた。無菌調製設備を持つ大阪府薬の会営業局と契約を結び、必要な時にはその設備を利用できる体制を整えた。

もう一つは現状では無菌調製が必要な処方箋を応需する機会が少ない。それでも今後、クリーンベンチの購入を検討したいという。「100万円くらいかかるとは取れないが、他店舗や地域の薬局薬剤師がそれで研修できる。地域全体の底上げに役立つ」と由香里氏は話す。

地域密着型の薬局を展開

進行堂薬局の出発点は、由香里氏の祖父が薬種商として約90年前に現地に開業した薬店だ。約30年前、薬局に業態を転換。3代目となる由香里氏が病院勤務を経て2006年から進行堂薬局本店で働き始めた。様々な人とのつながりで薬局を増やし、現在は近鉄針中野駅から隣の矢田駅までの直徑1キロほどのエリアに計5薬局を展開している。

進行堂薬局本店には日々、顔なじみの地域の住民が気軽に立ち寄る。由香里氏の父で大阪府医薬品登録販売者協会副会長を務める竹内和良

の連絡はしている」と由香里氏は話す。実際に、高齢者施設に入居する患者の処方設計に関する連絡や、病院に送信したトレーシングレポート、病院から送られてきた退院時薬剤情報サマリーに対する返書などの件数を数えたところ、年間で400件以上に達していた。

在宅医療の実績も問われるが、平均して1人以上の患者を担当し、月2回以上訪問していれば満たせる程度の要件でハードルは高くない。進行堂薬局本店も常時数人の在宅患者を担当しており、患者と関わっていれば自然に在宅医療を受け持つ場面は出てくるという。

日用品のエリアを縮小し、処方箋調剤に特化する方向性を模索したことがあった。しかし、父の和良氏はそのエリアはそのまま残すよう主張し、ゆずらなかった。「今にして思えばそれが良かった。売上の規模はそれほど大きくはないが、一定の額が見込めるため、薬局の経営基盤が安定する」と由香里氏は語る。

薬局薬剤師の権限拡大を

今後の目標として由香里氏は「医師と討議しながら患者の医療に貢献できる薬局や薬剤師を目指す」と語っている。

現在の地域連携薬局にはあまりの魅力を感じていない。「地域連携薬局を認定する仕組みを設け、薬局や薬剤師がその地域でより機能を発揮できるようにしたいのである」

例えば、地域連携薬局であれば、緊急避妊薬を医師の処方箋なしで販売できるようにしてほしいという。現在は医師の処方箋が必要で、多くの場合、医師は診察その場

で服薬させるため処方箋は外に出てこない。地域の医療インフラの一つである薬局が十分に活用されていないのが現状だ。

このほか、処方箋必需時に患者情報を十分に把握できる仕組みが全国で整備されれば、薬剤師は今以上に力を発揮できると期待する。「薬剤師には外してもいいのではないかと求めている」

薬学ゼミナール生涯学習センター

～タスクシフティングを目指して～

超デキるかかりつけ薬剤師プログラム開講中

(筑波大学 × 薬ゼミ産学共同研究開発 総合診療科 前野哲博先生監修)

10月17日(日) (池袋教室、他6教室でLive配信(予定))

薬剤師が知っておきたいアルコールの知識とその対応

筑波大学 医学医療系 地域総合診療医学 准教授
筑波大学附属病院総合診療科 吉本尚 先生

11月7日(日) (池袋教室、他6教室でLive配信(予定))

薬剤師にも役立つ口腔ケアの知識(仮)

九州大学大学院歯学研究院
口腔顎顔面病態学講座 口腔顎顔面外科学分野 大山順子先生

一般社団法人 薬学ゼミナール生涯学習センター

薬ゼミ 生涯学習

<http://www.yakuzemi-shougai.jp>



地域に根ざした薬局構築

みどり薬局(台東区)

みどり薬局(東京都台東区)は、蔵前地域に根ざした薬局として、子供と保護者を中心とした患者の相談に応じる薬局の構築を心がけてきた結果、認定制度が始まった8月1日付で地域連携薬局の認定を受けた。子供が服薬しやすい方法のレクチャーや保護者間の交流の場づくりなどに取り組み、コロナ禍でもオンラインで実施。厳しい環境下でも、地域住民に貢献できるサービスの提供に取り組み続けている。

2016年に健サ。ホ薬局認定

患者のプライバシー配慮

東京都では現在、約80軒の薬局が地域連携薬局として認定されており、子育て世帯が多い台東区蔵前で、地域住民の健康相談に応じたみどり薬局も制度がスタートした8月1日付で認定を受けた。

みどりの薬局は開設から

74年間、「住み慣れた街で最期まで楽しく健康に暮らすを応援する」を理念に掲げ、地域住民に寄り添う薬局づくりに努めてきた。既に2016年に健康サポート薬局の認定を受けていたため、坂口氏は「サポート薬局の要件を満たしているの

で、地域連携薬局の要件もクリアできるのでは」と考え、同区内で経営する他店舗と共に都に申請を提出。全店舗が制度開始日に認定を受けている。

地域連携薬局の認定基準として、患者のプライバシーに配慮した服薬指導ができる構造を求めているが、みどり薬局でもパーティションで仕切った相談スペースを設置したほか、他の相談場所も患者同士で視線が合わないよう考慮した配置にしている。

出入り口は段差のないフラットな構造なので、高齢者や障害者などが利用する車いすでもスムーズに来局できる。台東区社会福祉協議会の「車いすステーション」に登録しているため、同区の住民、在勤者が短期間の病院への通院や買い物の際



管理薬剤師の坂口眞弓氏

に、無料で車いすを貸し出している。

一方、坂口氏は構造要件として無菌調剤室の設置が求められたことへの対応に苦慮したと語る。

薬局内のスペースが限定されている反面、台東区ではクリーンベンチだけでなく、ベンチを囲むクリンルームの設置も必須としている。同一建物内の別フロアに設置することも要件を満たさないと判断され、保健所など行政と相談した上で、必要時に他薬局の無菌調剤室を紹介するように契

約した。

認定基準では、過去1年間に薬剤師を地域包括ケアシステムの構築に資する会議に参加していることを求めている。市町村または地域包括支援センターが主催する地域ケア会議等への参加が不可欠とした。

また、坂口氏は「地域ケア会議は中々参加する機会がなく、難しい」として、みどりの薬局は医師、看護師等と同行して患者宅を訪問する在宅療養管

理指導に取り組んでいるほか、介護ケア専門員が主催するサービス担当者会議にも参加しているため、これらで要件を満たした。在宅療養では、近隣の患者宅7〜8軒に老人ホーム入所の20人ほどを対象としている。

地域連携薬局に求められる他の要件について、坂口氏は「達成が難しいと感じたものは特にないが、申請書類の作成は手間取った」とし、再提出を求められた薬局があったことも聞いているという。



パーティションで仕切った相談スペース

地域住民交流の場を提供

コロナ禍でもウェブで代替

近隣に一般小児科クリニックと耳鼻科クリニックがあるため、来局者の7割ほどを小児患者が占

め、子供と保護者に向けたサービスの充実を図っている。待ち時間で子供の服薬を補助する服薬ゼ

の品揃えも充実させている。ただ、坂口氏は22年から延長されるセルフメディケーション税制について、「控除制度を知っている人は少なく、PRしても販売数が伸びにくいのが現状だ。社会保障費の現状を説明するなどして患者のリテラシーをどう上げるかが薬剤師の課題」と率直に語った。

成人向けの一般用医薬品、衛生用品、介護用品

SNS等で情報を発信

一般国民へのワクチン接種開始後、予約方法や情報が発信されていることを危惧し、医学的エビデンスに基づいた情報発信もSNSで行った。ワクチン接種後、薬局スタッフの半数に発熱が見られたなどの情報も薬局内に掲示している。

また、新型コロナウイルスに関する根拠のない情報が流布していることを危惧し、医学的エビデンスに基づいた情報発信もSNSで行った。ワクチン接種後、薬局スタッフの半数に発熱が見られたなどの情報も薬局内に掲示している。

地震など災害発生時に備え、浅草薬剤師会の「災

昨年11月からは、緊急避妊薬(アフターピル)の取り扱いも始めた。処方箋なしの販売をめぐり、国の専門家会議で検討が始まっているが、坂口氏は「女性が自分の身を守るという意識の点で日本は遅れている。薬剤師は同剤に関する知識を持つているので、市販化すべき」とした。

地域連携薬局に求められる他の要件について、坂口氏は「達成が難しいと感じたものは特にないが、申請書類の作成は手間取った」とし、再提出を求められた薬局があったことも聞いているという。

感染リスクから患者、医療従事者、そしてその家族を守りたい

マイクロジッド®
プレミアムワイプ
mikrozid® universal wipes premium



本品は医薬品及び医薬部外品ではありません。

さまざまな環境表面に

厚みがあり液含みが良い

血液汚染のあるところにも

欧州標準規格
EN16615を
クリア

開封後1ヵ月安定

●仕様 ●品名: マイクロジッド®プレミアムワイプ ●用途: 環境表面の洗浄および除菌 ●成分: エタノール12.6w/w%、イソプロパノール17.4w/w%、界面活性剤、有機酸ほか ●サイズ: 200×200(mm) ●枚数: 120枚 ●使用期限: 24ヵ月 ●使用方法: ワイプを取り出し、環境表面を拭いてください。●人体・食器・食品の清拭には使用しないでください。●表面が十分に濡れていることを確認し、自然に乾燥させてください。二度拭きは不要です。●使用範囲 ●テーブル、ベッド欄、ドアノブ、合成皮革ソファ、手すりなどの高頻度接触面 ●非侵襲性医療機器の表面 ●モニター、タブレット、スマートフォン、キーボード ●車椅子、血圧計、採血台、点滴台 ●手術台、処置台、无影灯 ●応急処置 ●目に入らないように注意してください。万一、目に入った場合には、すぐに水又はぬるま湯で洗ってください。●なお、症状が重い場合は、眼科医の診察を受けてください。●体に異常が現れた時は、使用を中止してください。●内容物、容器

は地域の規則に従って廃棄してください。●含浸液について ●引火性の液体および蒸気 ●強い眼刺激 ●飲み込むと発がんのおそれ ●飲み込むと生殖能又は胎児への悪影響のおそれ ●吸入すると臓器(中枢神経系)の障害 ●長期にわたる、又は反復ばく露(吸入)による臓器(肝臓、血液への影響)の障害 ●使用上の注意 ●使用前に製品安全データシート(SDS)を参照してください。●人体には使用しないでください。●使用後はフタをしっかりと閉めてください。●ワイプをトイレに流さないでください。●開封後は1ヵ月以内に使用してください。●熱、直射日光、霜を避けてください。●容器は入れ替えず、室温で保存してください。●幼児の手の届かないところに保管してください。●熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけてください。●機器などに使用する場合は、目立たない部分で試してからお使いください。●広範囲又は長時間使用する場合には、蒸気の吸入に注意してください。

【発売元】日本エアーリード合同会社 Schulke Japan
【資料請求先】丸石製薬株式会社 学術情報部 大阪市鶴見区今津中2-4-2 TEL:0120-014-561

【販売元】◎丸石製薬株式会社
(2021年3月)

伝統と経験を未来へ

テイコク漢方



医療用漢方製剤

47品目

薬価基準収載

●包装/42包入・252包入・500g

販売元 帝國製薬株式会社

香川県東かがわ市三本松567番地

製造販売元 帝國漢方製薬株式会社

徳島県阿波市土成町土成字北原80番11

〈製品情報お問い合わせ先〉

医薬営業部 製品情報室

TEL:0120-189-567

受付時間/月〜金 9:00〜17:30 (祝日、当社休日を除く)

TEL:0120-189-567

当ファイルの著作権は(株)薬事日報社またはコンテンツ提供者に帰属します。当ファイル(印刷物含む)の利用は私的利用の範囲内に限られ、それ以外の無断複製・無断転載・無断引用はご遠慮ください。当ファイル(印刷物含む)を社内資料、営業資料などでご利用される場合はご相談ください。

株式会社薬事日報社 TEL:03-3862-2141 shinbun@yakuji.co.jp http://www.yakuji.co.jp/



すばる薬局外観

地域の癌患者支える薬局

すばる薬局(品川区)

東京都品川区にある「すばる薬局」は8月1日付で専門医療機関連携薬局の認定を取得した。専門医療機関連携薬局の認定を取得しているのは、大手調剤薬局チェーンや癌治療を行う基幹病院の門前薬局に偏っているのが現状。小規模で基幹病院から離れた場所に立地する薬局が認定を取得するのは珍しいケースだ。地域に根付いた薬局として癌で苦しむ患者の不安に耳を傾けている。

小規模でも連携薬局に

区薬の支援受け認定取得

すばる薬局は2016年に開局し、JR大森駅から徒歩10分の場所に立地している。少し歩けばオフィス街だが、団地やマンションなど住宅地の側面もある。入居しているビルは2階には小児科のクリニックがあり、小児科関連の処方箋を多く応需している。

すばる薬局を開局したのは原山眞理子氏。薬剤師は原山氏を含め3人体制となっている。

専門医療機関連携薬局は、癌などの専門的な薬学管理が必要な患者に対して、他の薬局や医療機

関と連携しながら、専門的であり高度な薬学管理や調剤に対応できる薬局と位置づけられている。

原山氏は品川区薬剤師会副会長を務める。認定薬局制度が創設される前から、癌医療の地域連携で薬局がどうあるべきかを考えてきた。18年には加藤肇区薬会長と一緒に品川区がん研究会を立ち上げた。

専門医療機関連携薬局の認定基準には、高いハードルが課されており、東京都でも取得しているのはごくわずかの薬局に限られている。原山氏は「認定を取ることに関心があつたわけではない。調剤薬局チェーンでもなく、基幹病院の門前薬局でもない、開局して5年の薬局でも、十分にできることを若い世代の薬剤師にも見せたかった」と話す。加藤会長をはじめとする品川区薬剤師会のバックアップを受けて、8月1日に認定を取得することができた。

現在、6人の癌患者に関する薬学的管理を行っている。専門医療機関連携薬局の認定基準には、「過去1年間のうち、処方箋を受ける癌患者の半数以上について、癌治療を行う医療機関への情報を共有を行った実績」が要件となっているが、すばる薬局では癌の専門病院から離れた場所に立地しているため、癌患者の処方箋を受けることはほとんどない。癌に対応して

抗癌剤の作用 動画で説明

抗癌剤は新しいタイプの薬が続々と登場しており、患者によっては主治医に治療内容を説明してもらっても、その場で理解できずに薬剤師に聞いて確認することもある。原山氏は患者が納得して治療を受けられるよう、医師による治療内容について分かりやすく説明を行っている。

その一環として、抗癌剤が癌細胞に作用するまでのメカニズムを理解できるシミュレーション動画を独自に作成した。タブレットPCを患者に見せながら



原山眞理子氏

説明し、動画は患者が自宅でも見られるよう患者のメールに送付している。複雑な作用機序を持つ抗癌剤が登場しても、動画だと視覚的にイメージできるため、患者から分かりやすくと評判だ。

経口抗癌剤は47種類と多岐にわたっていることから、それぞれの抗癌剤で患者に正しく薬剤管理指導が行えるよう、品川区がん研究会で作成したチェックシートを活用している。併用禁忌の確認や併用注意薬の有無、アドヒアランスの確認、効果の確認、痛みの評価、副作用評価を行っている。患者の薬剤などの使用

癌共生社会における薬剤師が担う役割は、患者がどう生きていきたいのかに耳を傾け、悩みや不安に寄り添うこと。専門医療機関連携薬局では、高度な薬学的管理に対応していく重要性が強調されているが、原山氏によると、薬剤師への相談で多いのは治療に関するこ

生活上の不安も支援を

とではなく生活上の不安だ。例えば、「自分が癌になったことで、子どもが癌にならないかが心配」「家族に経済的な心配をかけたくない」「普通の日常生活が送れるようになる。長生きすることよりも、自分らしく人生の

最期を終えるためにどんな準備をしたらいいのか」「終活」の相談も多いという。

患者のサポートに必要なのは人間としての経験である。原山氏は積極的に地域の行事に参加する。そのほか、東京都パドミントン協会審判委員として、学習塾講師と

中で、真剣に学びたいと思い、昭和大学病院薬剤部の門を叩いた。現在ではがん研有明病院副薬剤部長を務める清水久範氏による研修を受け、薬物療法や副作用評価など癌の専門的教育、地域連携の重要性について学んだ。

「認定を取ったからといって活動は何も変わらない」としつつも、「品川区がん研究会でどんな取り組みを行っているか継続的に発表していきたい」と述べ、癌患者を支える薬局が一軒でも多く増やせるよう地域の中で底上げにつなげたいと話

作成したチェックシート

ネットワークに欠かせないのが地域診療所のかかりつけ医だ。在宅療養中の患者で痛みが耐えられないと訴えた場合に、基幹病院に痛み止めの薬を緊急的に処方してもらいたくてもなかなか連絡がつかないケースがある。その際には、診療所のかかりつけ医に頼み、FAXで処方箋を出してもらい、原山氏が薬を持って急いで患者宅に駆けつけることもある。

開店時間外の相談、休日・夜間の対応はこれまで当たり前前に実践してきた。原山氏は一人暮らしの高齢患者からは病態急変時のために家の鍵を預かっているという。何かあったときには深夜でも電話してくれ、と伝えている」と言う。24時間対応で患者を診る心構えと責任が必要になる。

薬局業務トータル支援システム くすだま

KUSUDAMA

地域連携薬局で活躍される薬剤師の方に!

トレーニングレポート
在宅の報告書も簡単に作成!

処方も薬歴も在宅も、全てKUSUDAMAにお任せください!

KOKANDO

解熱鎮痛薬 ロキソプロフェン錠「クニヒロ」

頭痛、生理痛に

ロキソプロフェン錠「クニヒロ」は、プロスタグランジンの生成を抑え、痛みや熱に効果をあらわすロキソプロフェンナトリウム水和物を成分とした錠剤です。

第1類医薬品

皇漢堂製薬株式会社

尼崎市長洲本通2丁目8番27号
TEL 06-6482-5115(代)

効能効果

- 頭痛・月経痛(生理痛)・歯痛・抜歯後の疼痛・咽喉痛・腰痛・関節痛・神経痛・筋肉痛・肩こり痛・耳痛・打撲痛・骨折痛・ねんざ痛・外傷痛の鎮痛
- 悪寒・発熱時の解熱

薬局業務トータル支援システム くすだま

KUSUDAMA

地域連携薬局で活躍される薬剤師の方に!

トレーニングレポート
在宅の報告書も簡単に作成!

処方も薬歴も在宅も、全てKUSUDAMAにお任せください!

株式会社ズー

〒386-1211 長野県上田市下之郷字浅間原813-12
TEL 0268-37-1531(代)



岡田 浩氏 (京都大学SPH薬局情報グループ) に聞く

住民に正しい情報の提供を

薬局薬剤師が果たす役割とは

新型コロナウイルスの感染拡大は、今もなお続いている。感染拡大を受けて多くの薬局薬剤師が、時には対応に苦慮しながら、住民への適切な情報提供、地域の感染防止やワクチン接種の推進などに取り組んでいる。こうした取り組みを通じて薬局の役割を改めて見つめ直した薬剤師も少なくないのではないだろうか。感染拡大早期からの積極的な情報発信で薬局薬剤師を支援してきた京都大学SPH薬局情報グループの岡田浩氏(同健康情報学特定講師)に、薬局薬剤師の役割や目指すべき方向性、世界の動向を聞いた。

—どのような情報を発信してきたのか。

薬局薬剤師の行動を支援するために昨年4月にウェブサイトを立ち上げ、必要な情報を短時間で得られるようにリンク集を設けたり、独自の資料や動画を作成したりした。

具体的には、薬局での防疫対策チェックリストや、感染対策やマスクの使い方などを住民に啓発する様々なポスターを作成した。医師に感染対策や臨床症状を聞いた動画や、各薬局での対策を薬剤師に聞いた動画などを配信した。

—なぜ、情報発信に踏み切ったのか。

薬剤師向け新型コロナウイルス感染症ガイドラインの改訂版を、許可を得て日本語に翻訳し、ウェブサイトに掲載した。翻訳には、薬局薬剤師を中心に大学教員やプロの翻訳家など、熱意のある総勢50人ほどの有志が協力してくれた。皆で分担し、情報発信に取り組んだ。

—なぜ、情報発信に踏み切ったのか。

薬剤師として働いていた自身の経験を振り返ってみても、薬局で患者や住民から相談を受けることは多い。洪水のように様々な情報が溢れる中で、正しい情報を選択し伝えることが薬局の重要な役割だ。しかし、薬局薬剤師は

は、正しい情報を発信する役割があると思う。—情報発信への反響は。

ウェブサイトに半年間で約10万アクセスがあった。日本薬剤師会と日本保険薬局協会の会員約4000人を対象に調べたところ、約2割の薬剤師が見てくれたことが分かった。

現在では、当初の役割を終えたとして情報の更新をほぼ休止しているが、このような情報発信は多くの薬剤師に影響を与えていることを示すことができる。今後は組織力のある機関が薬剤師の支援活動を続けてほしい。オンライン研修や現場で使える資料の提供が有効だと思う。

—薬剤師の活躍に向けて今後、日本はどう進めるのが現実的なのか。

医師との関係で言えば、病に苦しむ患者を助けるという目的を同じにする医師と薬剤師が診療報酬の支払いを合意する。このように問題を矮小化すべきではない。医師の収入を削るような制度改革は根柢を残し上手く行かないだろう。幸いにも

今の30代以下の医師には、研修先の病院等で助け合う仲間として薬剤師と関わった経験があり、薬剤師の仕事に理解がある。将来的な医師との関係には希望を持っている。ただ、薬剤師側に独立した専門職として受けて立つ覚悟も必要になるだろう。

海外の薬局も方向性は同じ

共通する慢性疾患の増加

—海外ではワクチンの注射まで行えるなど、国内外の薬剤師が担う業務範囲の違いも注目され

た。ただ、薬局薬剤師の役割は日本も海外も大きく変わらない。直ちに医師の診察を受けるほどではないグレーゾーンの相談

—海外の薬局薬剤師はどのような方向性を目指しているのか。

薬局薬剤師の経験をもとにCOMPASS研究を実施し、薬剤師の患者への声かけには糖尿病患者の血糖コントロールを改善する力があることを示したが、その研究を実施する直前、2010年

頃の海外の状況を調べた。すると、イギリスでは薬局薬剤師が栄養指導や禁煙など公衆衛生上の課題に取り組んでおり、ほかにもカナダやオーストラリアで糖尿病や高血圧の患者を地域の薬局でいかに支えるかという研究が増えつつあった。

近年は、例えば北米では、カナダのアルバータ州だけでなく、薬剤師の処方権を認める州が増えている。新型コロナウイルスの感染拡大もあって、薬局で予防接種や検査を実施する取り組みも世界中で広がっている。地域の健康支援に薬局を幅広く役立てること

は、日本に限らず世界的な動向だ。—その背景にある要因は何か。

大きな要因は、世界で共通する社会の高齢化と、それに伴う慢性疾患の増加だ。慢性疾患の患者が増える治療期間が長くなる。そうすると医師が患者にこれまでと同じように時間を割くのは難しくなる。日本では主に医師のコストを引き下げることで制度を保とうとしているが、海外ではタスクシフトによる仕事の切り分けが進んでいる。そこで、ナースプラクティショナーを設けたり、薬剤師の処方権を認めたりしているのだと思う。

—薬剤師の活躍に向けて今後、日本はどう進めるのが現実的なのか。

医師との関係で言えば、病に苦しむ患者を助けるという目的を同じにする医師と薬剤師が診療報酬の支払いを合意する。このように問題を矮小化すべきではない。医師の収入を削るような制度改革は根柢を残し上手く行かないだろう。幸いにも

第54回日本薬剤師会学術大会

(順不同)

公益社団法人 福岡県薬剤師会

会長 原 亨

〒812-0018 福岡市博多区住吉二丁目二〇ー一五

公益社団法人 東京都薬剤師会

会長 永田 泰造

〒101-0054 千代田区神田錦町一丁目二一

一般社団法人 大阪府薬剤師会

会長 乾 英夫

〒540-0019 大阪府中央区泉町一丁目三ー八

九州山口薬剤師会

会長 宮崎 俊

福岡県薬剤師会

会長 佐賀 浩

佐賀県薬剤師会

会長 長崎 幸

長崎県薬剤師会

会長 熊本 孝治

熊本県薬剤師会



一般社団法人 日本病院薬剤師会

会長 木 健治

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷二丁目二一五(長井記念館)



一般社団法人 日本女性薬剤師会

代表理事 近藤 由利子

〒130-0012 墨田区太平三丁目一



Pharmaceutical and Medical Device Regulatory Science Society of Japan

一般社団法人 医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷二丁目二一五(長井記念館)

シームレスな連携でサポート

PHC

PHCは薬局・薬剤師を支援する多彩な電子薬歴システムや患者アプリを揃えている。クラウド・オンプレミスのハイブリッド型のLeadクラウド薬歴「DrugstarLead」は、薬局の体験を変化させる。薬の変更点を印刷して、患者とのコミュニケーションを促進し、薬識向上と服薬継続を支援する。患者のスマートフォンを活用して、非接触の新患アンケート(先確認ヒアリング)が提供できる。必要なときに場所を選ばず、タブレット・スマホから薬歴簿の参照・入力・承認が可能になった。

電子薬歴システム「PharnesV-MX」は、シンプルで分かりやすい電子薬歴となっている。レセプトコンピュー

ターと薬歴をシームレスに一体化した最新の電子薬歴システムで、患者の諸情報や過去歴をひと目で把握でき、患者の腎機能に基づく監査など、充実したデータベースによる監査でリスクを低減。

ハイリスク薬画面やシェーマ図などで、きめ細かな指導も支援して、患者に寄り添う薬剤師をサポートする。

「DrugstarPrime」は患者参加型の治療を実践する「アドヒアランス向上プログラム」を搭載、患者判断による服薬中断を防ぐ高機能の電子薬歴システム。推定病名による処方矛盾チェック、多剤併用・漫然投与チェックなどの機能で、医師と協力して薬物治療の最適



化を目指す薬剤師をサポートする。

ヘルスケア手帳は、処方箋受付から服用管理はもちろん、オンライン服薬指導や配薬・決済にも対応、さらには服用中のフォローアップまで患者アプリの決定版となっている。患者さんがアプリで撮影した処方箋画像が薬局に届くため、事前に薬の準備と準備完了

の通知ができ、業務効率向上・患者の待ち時間有効活用での満足度向上や、新規顧客獲得が見込める。

また、服用薬を管理する「電子版お薬手帳」の機能も備えており、電子薬歴システム「PharnesV-MX」「DrugstarPrime」とのシームレスな連携が可能となっている。

話題の調剤支援システム

関連記事23～26ページ

今秋、DS Box Unitを追加

ユヤマ「DrugStation」

ユヤマは、昨年新発売した処方箋の内容に基づく医薬品の取り揃え(ピッキング)業務を自動で行う自動薬剤ピッキング装置「DrugStation(ドラッグステーション)」に今秋、薬品箱の充填作業を自動で行い、薬品欠品時と充填時に薬品箱ごと払出しを行うDS Box Unit(自動薬品箱充填払出装置)の追加を予定している。

ドラッグステーションは、本体部とピッキング台で構成されている。本体には薬品トレイが整然と配置され、薬品箱だけでなくPTPシート、漢方、点眼薬、軟膏チューブ、予製した分包品など計数調剤可能な医薬品が収容可能。

レセコンからの処方情報をドラッグステーションが受信すると本体のロボットアームが該当する薬品トレイを取り出しピッキング台へ運ぶ。ピッキング台に薬品トレイが到着すると薬品払出シャッターが開き、目の前にある

薬品の詳細が表示されたモニターを見ながら、必要数を取り揃える。

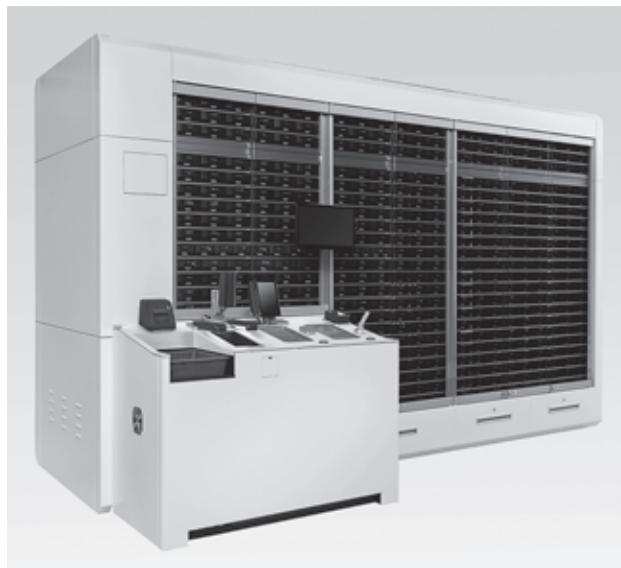
薬品払出シャッターは、複数薬品を収納しているトレイでもピッキングする対象薬品の箇所しか開かないように設計されていて、集薬した医薬品の形状をカメラで確認し、端数を判断すると共に、重量による鑑査も行うため、正確性を飛躍的に向上させ、薬品の取り間違い、数え間違いを防止することができる。

今秋、追加を予定しているDS Box Unitはドラッグステーション本体に連結させ使用する。ピッキング時に払出量が足りず欠品した際に保管場所までわざわざ取りに行かなくとも、DS Box Unitから箱単位で自動的にピッキング台周りに運ばれてくるユニットだ。

医薬品の充填方法には、手差しタイプといわゆる「折りコン」をそのまま装置内に入れると自動で充填してくれる2タイプがある。手差しタイプは、

充填専用の手差し部内にあるGS1コード読み取り装置を使い、薬品箱のGS1コードを照合し、薬品情報を識別。手差し部内にセットするだけで、自動的に薬品は庫内に収納され必要に応じて払出しを行う。また、自動タイプは、手差しタイプに充填装置を連結させ、卸から入荷された折りコンを装置内にセットするだけで、庫内にあるロボットアームが薬品箱を1箱ずつ掴み、薬品の識別および庫内の棚に自動的に配置する。

ピッキング業務は、薬剤師が調剤室内を動き回って薬品を取り揃えるために時間を要していたが、2019年4月2日に厚生労働省から「調剤業務のあり方について」が発出され、薬剤師の目が届く場所で、薬剤師以外でも医薬品の必要量を取り揃える行為が可能と



なった。

ドラッグステーションでは、目の前に出現する薬品トレイに入っている薬品をピッキングするため、だれでもピッキング業務を平準化することができ、効率性と安全性が向上し、薬剤師は本来の対人業務に時間を割くことができるなど、薬局業務の質の向上にもつながっている。

第54回日本薬剤師会学術大会

(順不同)



帝京平成大学 薬学部

〒164-8530 東京都中野区中野四一―二
電話 〇三(五八六〇)四七一



日本薬科大学

〒362-0806 埼玉県北足立郡伊奈町小室一〇二八
電話 〇四八(七二一)一一五五番



城西大学 薬学部

〒350-0295 埼玉県坂戸市けやき台一―一
電話 〇四九(二七二)七七一一番



奥羽大学 薬学部

〒963-8611 郡山市富田町三角堂三一―一
電話 〇二四(九三二)八九三一番



東北医科薬科大学

〒981-8558 仙台市青葉区小松島四一―一
電話 〇二二(二三四)四一八一番



社団法人 日本チエンドラッグストア協会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門一―一五―一〇名和ビル五階
FAX 〇三(三五〇六)一〇〇三三番



公益社団法人 日本薬剤師研修センター

〒107-0052 港区赤坂一―一九―一三
電話 〇三(三五六八)八二〇一



公益社団法人 薬剤師認定制度認証機構

〒105-0003 東京都港区西新橋一―九―二
電話 〇三(三五一九)五八三八

サジェスト機能を搭載

E Mシステムズ「MAPs for PHARMACY」

E Mシステムズの電子薬歴・レセコン一体クラウド型薬局向け業務支援システム「MAPs for PHARMACY」は、最新の機械学習を活用したサジェスト機能を搭載している。システム側から薬剤師に対して様々な提案を行い、業務の効率化や質向上を支援することが特徴だ。

サジェスト機能の一つ目が、処方箋情報を解析し病名を推論する機能。処方箋には病名が記載されておらず、薬剤師は多くの場合、経験をもとに患者の受診目的を推測するしかない。同システムでは、これまで蓄積したデータと処方箋に記載された情報から病名を推論し、該当する割合も含めて病名候補を提案することによって、薬剤師による患者病名の推測をサポートする。

二つ目が服薬指導文章サジェスト機能。日本大学薬学部薬学研究soとの共同研究により、服薬指導文章例約19万

件をデータベースとして整備した。システムに入力された患者情報、処方箋情報等を解析し、患者に適した服薬指導文章例をデータベースの中からサジェストする。

S O A P形式での薬歴記入時に、AとPの指導文章内容を同システムが提案し、服薬指導業務をサポートする機能もある。薬剤師が入力した指導内容と合わせて、選択したサジェスト文章を薬歴に反映できるため、薬歴作成時間の短縮が期待できる。

そのほか、業務負担軽減や健康サポート薬局の機能発揮に役立つ様々な新機能を搭載した。

2020年9月1日から、薬機法の改正により義務化がスタートした患者服用期間中のフォローアップへの対応機能を搭載。リストアップされた患者ごとの継続的な服薬状況の把握や指導、薬歴への記載を支援する。また、今年

からスタートするオンライン資格確認にも対応しており、連動を行うことで患者登録作業を軽減できる。

電子薬歴画面から薬剤師は、医師12万人の口コミサイト(ヤクメド)内にある

薬剤評価掲示板を閲覧できる。医師が臨床現場で経験した医薬品の効果や副作用などの情報や薬剤師が経験した調剤事例等を掲示板で共有することで医師や他の薬剤師の考えを知り、経験値を上げることができる。疾患別の栄養・食事指導レシピを画面に表示したり印刷したりして患者に提供する機能や、デジタル化された患者向け指導箋を印刷し提供する機能も備えている。

このほか、複数メーカーのレセコンを使用しているチェーン薬局の様々な



データを取り込んで一元管理できる本部システムや在庫管理システムを、オプションとしてリリースする。

MAPs for PHARMACYは、医科や調剤、介護、福祉分野における共通情報システム基盤「MAPsシリーズ」の薬局向けシステム。レセプト請求や窓口計算などマスタ部分を共通化することで効率的な開発が実現し、安価なシステムの提供が可能になった。「MAPsシリーズ」間でのシステム同士の情報連携も容易になっている。

LINE活用の患者フォローも

ユニケソフトウェアリサーチ「P-CUBE n」

ユニケソフトウェアリサーチは、「薬剤師による対話をサポートし、患者さまの『物語』に寄り添う医療の実現を目指す」をコンセプトとした電子薬歴レセコン一体型システム「P-CUBE n」を3月に新発売した。

同社では、薬剤師の対人業務による医療の質を確保するために、薬剤師の業務効率を向上させることが急務であるとし、7年続いた電子薬歴システムの刷新を行った。

従来では、監査や服薬指導・薬歴入力の各業務において複数の画面を遷移しなければならなかったが、開発に当たり実際の業務運用の流れを抜本的に見直して、必要な情報を一つの画面に集約させて、1クリック単位での省力化を実現させた。薬歴の視認性も高まり、使いやすくなったと好評を得ている。

薬歴の入力支援機能も充実させた。

電子薬歴に記録された基礎情報(頭書き)や過去処方との比較から薬歴の「S」や「O」情報の転送入力や、標準搭載の服薬指導ガイダンスを用いて患者に適した薬剤ごとの服薬指導と薬歴入力を、患者に行った確認や処方薬の説明の際に、1クリックで薬歴入力へと反映させることができる。そのため、薬剤師は薬歴入力だけでなく、患者への聞き取りやアセスメントに、より時間をかけることができるようになった。

「P-CUBE n」では薬歴の継続性を意識した設計になっている。前回薬歴でO P (Observation Plan) で記録された内容があれば、次に指導する薬剤師に対して確認を行うための「気付き」を促す。確認の結果、完了・継続の状態を選択することで、その内容が薬歴に転送されるため、結果として、今まで以上に薬歴の継続性を意識した

服薬指導・薬歴入力を行えるようになる。

薬剤師と患者をつなぐ新たなツールとして、LINEを使った患者フォロー機能を「P-CUBE

n」に標準搭載した。電子薬歴本来の役割であった服薬指導・薬歴入力に加えて、服用後のフォローアップ機能を持たせることで、新しい患者とのコミュニケーションを生み出し、薬剤師の職能を最大限に発揮することを支援する。

年代問わず広く利用されているLINEを活用することで、サービス開始に当たっての薬剤師・患者双方の負担を軽減させ、服薬フォローの継続性も高めることができる。

さらに、電子薬歴と連携しているこ



とで、処方内容や患者の状態から最適なフォローコンテンツを選択。自動応答機能により、アドヒアランスや副作用の確認から指導までを負担なく行うことができ、フォロー内容を同時にテキストで記録することができる。

このフォローアップ機能は標準搭載であるため、スタートアップの費用がかからない。フォロー実績が少なくても、LINEを使った服薬フォローを積極的に患者に勧めることから始めることができ、薬剤師が着実に実績を積み上げてほしいと同社は提案する。

第54回日本薬剤師会学術大会

(順不同)

立命館大学薬学部

〒525-8577
滋賀県草津市野路東一丁目一一
電話 〇七七(五六一)二五六三

新潟薬科大学

〒956-8603
新潟市秋葉区東島二六五一
電話 〇二五〇(二五)五〇〇番

湘南医療大学薬学部

〒244-0806
横浜市戸塚区上品濃一六四八
電話 〇四五(八二二)〇一一番

横浜薬科大学

〒245-0066
神奈川県横浜市戸塚区俣野町六〇一
電話 〇四五(八五九)一三〇〇

明治薬科大学

〒204-8588
東京都清瀬市野塩二一五二二一
電話 〇四二(四九五)八六一一番代

武蔵野大学薬学部

〒202-8585
東京都西東京市新町一一一一二〇
電話 〇四二(四六八)三三五〇番

東京理科大学薬学部

〒278-8510
野田市山崎二六四一
電話 〇四(七一二四)一五〇一(代表)

東京薬科大学薬学部

〒192-0392
東京都八王子市堀之内一四三二一一
電話 〇四二(六七六)五一一番代

当ファイルの著作権は(株)薬事日報社またはコンテンツ提供者者に帰属します。当ファイル(印刷物含む)の利用は私的利用の範囲内に限られ、それ以外の無断複製・無断転載・無断引用はご遠慮ください。当ファイル(印刷物含む)を社内資料、営業資料などでご利用される場合はご相談ください。

株式会社薬事日報社 TEL:03-3862-2141 shinbun@yakuji.co.jp http://www.yakuji.co.jp/

薬局トランスフォーメーション

三菱電機ITソリューションズ 「調剤Melphin/DUO」

三菱電機 ITソリューションズは、過去35年以上にわたり薬局向けシステムの開発や販売を手がけてきた。同社が提供する保険薬局向けシステム「調剤Melphin/DUO」シリーズは、処方箋受付から服薬指導まで保険薬局の業務を幅広くカバー。さらにオプションシステムの組み合わせによって、保険薬局に特化したセミセルフ型も可能なPOSシステムと連動する機能や、在庫管理・経営管理といった経営面までトータルに支援する機能を備えている。昨今、多くの企業が業務効率化・生産性向上、価値創造やビジネスモデルの変革に向けてDX（デジタルトランスフォーメーション）への取り組みを行っている。保険薬局も例外ではなく、DX化の波が押し寄せてきている。今回の新型コロナウイルスの感染拡大をきっかけにして一気にオンライン化が進んでいることが一例だ。患者が自宅にいな

らオンライン診療で医療機関を受診、電子処方箋が任意の薬局に送信され、オンライン服薬指導を受けるといった流れが当たり前になる時代がすぐそこまできている。今回、同社の展示ブースでは「薬局トランスフォーメーション～DX化で目指す薬剤師・薬局の未来～」をテーマに、急激な変化への対応を求められている薬剤師・薬局を支援する様々な機能を紹介する。例えば、電子薬歴システム「Melhis」では、新たに開発した「服薬指導ガイド」(SY-POS2)により、患者特記・併用薬・処方内容・過去の薬歴といった情報をもとに、薬剤師が指導・確認すべき項目を自動的に抽出、提案する。提案内容は処方時期によっても変わり、初回処方では服用の仕方、2回目では副作用の有無の確認が提案されるという。指導後は画面上で服薬指導を行った項目にチェックを付けるだけ

で自動的に薬歴が作成され、追加の情報があればキーボードから入力することも可能だ。しっかりした服薬指導と薬歴作成ができた上で、業務を効率化することをコンセプトに製品化されており、電子薬歴作成業務が効率化されることで、対人業務への時間創出が実現され、かかりつけ薬剤師・薬局の役割発揮に寄与するという。フォローアップ機能も充実している。継続フォロー対象患者に対してフォローアップ日程の自動作成が可能だ。さらに、昨年業務提携を発表したメドピアの「kakari」との連携により、「kakari」を利用している患者に自動的に服薬状況確認チャットを送信、患者からの回答を自動で薬歴に記録できるようになり、薬剤師・薬局と患者の円滑なコミュニケーションをサポート

する。そのほか、チェーン薬局向けに、在庫管理／経営支援／薬歴共有といったクラウド型本部システムでチェーン薬局の管理業務もサポートする。各店舗の処方箋入力を本部で代行する「入力センターシステム」で店舗の事務作業、事務要員の省力化も可能としている。薬局・薬剤師への期待の高まりと共に薬局の業務領域は拡大の一途をたどっているが、同社は製品やサービスの提供を通して、薬局の変化をサポートしていく考えだ。



薬剤師目線の電子薬歴

C.Medical「コネクトレポート」

京都府を中心に薬局を展開するゆう薬局の子会社、C.Medicalが販売するアプリ「コネクトレポート」は、現場の薬剤師目線で使い勝手の良さにこだわったクラウド型電子薬歴。在宅や薬局での患者対応など様々な場面の業務効率化に役立つほか、本当に現場で必要とされる機能に絞り込み、低コストでの導入や運用を実現している。さらに、オンラインでの服薬指導や服薬後フォローアップなどを支援する機能「コネクトオンライン」の開発も進めている。「コネクトレポート」は、レセコンから患者情報や処方情報を吸い上げ、クラウド上で電子薬歴として機能する。いつでもどこでも携帯端末のiPadやノートパソコンで薬歴を閲覧できる。現場の薬剤師目線で使い勝手の良さ

にこだわったことが特徴だ。システムに多数の機能を盛り込んでも、現場では十分に使われないことは多い。開発に当たっては、誰もが使いこなせるように本当に必要とされる機能に絞り込み、操作性も重視した。在宅訪問時にその場で報告書と薬歴を一括で入力したり、撮影した写真を共有する機能で患者の状態やオーダーメイドの調剤を薬剤師間で引き継ぐなど、業務負担軽減に役立つ様々な機能を搭載。医療機関からの情報提供書類など紙の書類をクラウド上で保存しペーパーレス化を実現する機能や、カレンダー画面から訪問施設や患者情報を確認できる機能もある。訪問する患者の所在地を画面上の地図に表示するなど、現場からの要望を機能に反映さ

せた。開発中の「コネクトオンライン」は、患者のスマートフォンなどにダウンロードしてもらった専用アプリを通じ、ビデオ通話や処方箋画像の送受信のほか、服薬期間中のフォローを行うもの。薬剤師は、各種テンプレートから質問文を選択したり、自ら作成したりして、患者に送信する。患者は画面上で、質問に「はい」「いいえ」などで回答する。それを受けて薬剤師は必要に応じて電話をかけて詳しい状況を聞いたり、服薬指導を行って患者をフォローする。画一的に質問を自動送信するシステムでは、患者の個性が十分に考慮されず、返答率が低下する可能性がある。



薬剤師が個々の患者に応じた最適な質問を投げかけられる仕組みを目指している。「コネクトレポート」の初期導入費用は大手ベンダーの10分の1程度。このほか薬局の店舗数に応じて毎月の利用料の支払いが必要になるが、利用端末台数がどれだけ増えても利用料は一定で変わらない。

第54回日本薬剤師会学術大会

(順不同)



久光製薬株式会社

代表取締役社長 中 富 一 榮
九州本社 〒841-0017 佐賀県鳥栖市田代大官町408番地
東京本社 〒100-6330 東京都千代田区丸の内二丁目4番1号



ゼリア新薬工業株式会社

代表取締役社長 伊 部 充 弘
〒103-8351 東京都中央区日本橋小舟町一〇一
電話 〇三(三六六三)二三五一番(代表)



大塚製薬株式会社

代表取締役社長 吉 村 次 生
〒108-8242 東京都港区港南二一十六番四
電話 〇三(六七七一)一四〇〇(代表)



株式会社アステム

代表取締役社長 吉 村 次 生
〒870-8602 大分市西大道二丁目三番八号
電話 〇九七(五四三)九九五二



中北薬品株式会社

代表取締役社長 中 北 馨 介
〒460-8515 名古屋市中区丸の内三五一五(油伊ビル)
電話 〇五二(九七一)三六八



東邦薬品株式会社

代表取締役社長 中 北 馨 介
〒155-8655 東京都世田谷区代沢五十二
電話 〇三(三四一九)七八一一

第一薬科大学

〒815-8511 福岡市南区玉川町二二一
電話 〇九二(五四一)〇一六一



大阪医科薬科大学 薬学部

〒569-1094 大阪府高槻市奈佐原四一〇一
電話 〇七二(六九〇)一〇〇〇

服薬フォロー「フォロナビ」と連携

ノアメディカルシステム

「SOAP.Q&S PROUD」

ノアメディカルシステムは、「Think Pharmacy 時代が求める地域密着型の薬局へ」をコンセプトとして薬局業務システムの商品開発に取り組んでいる。

電子薬歴システム「SOAP.Q&S PROUD」(プラウド)は、患者への情報伝達の時間、コミュニケーションの時間を大切にするため、Q&S(クオリティー&スピード)を重視し、従来からの「質の高い記録内容」はもとより、マウス操作やキーボード操作がしやすい設計により入力時間を大幅に短縮。使用頻度の高い画面を中心に、直感的に入力可能な画面レイアウトや画面カラーを徹底的に研究し、視認性に優れ

た操作性を実現している。

服薬指導文についても最新の医薬品適正使用データベースから使用頻度が高い指導文を整理分類して配置。抽出したセルを選択または追記することで、ワンクリックで指導文が作成できる。薬局オリジナルで作成した指導内容や定型文をシステム全体で共有することもでき、よく使う指導内容はあらかじめマイページに登録することもできる。

さらに、ユニケソフトウェアリサーチが開発した調剤後の服薬期間の継続的なフォローアップを支援するサービス「フォロナビ」との連携により、

より効果的で継続的なフォローアップを行えるようになった。

「フォロナビ」は、患者や薬剤師の負担を軽減しつつ患者QOL向上を実現する

次世代服薬フォローアップサービス。無料通話・メールアプリ「LINE」を活用した患者と薬剤師のやり取りは、「SOAP.Q&S PROUD」で確認することができ、患者からの重要なメッセージを見落とすこともなく、やりとり結果やコメントは薬歴に連携ができ入力の効率化が図れる。

また、服薬フォローを行うために患者が回答しやすい設問等を提示する機能も搭載している。設問コンテンツ

フォロナビ



は、ユニケソフトウェアリサーチと東京理科大学薬学部鹿村研究室との共同研究により、様々な服薬フォローアップコンテンツを準備している。その中には、気管支喘息患者に焦点を当てた吸入指導後のフォローアップコンテンツや抗癌剤治療患者や2型糖尿病患者への服薬フォローアップ内容などもあり、的確なフォローアップを支援する。コンテンツは今後も順次追加していく予定。

発注から売上まで一元管理

東邦薬品「ミザル」

東邦薬品は、本部で必要な経営支援業務を一元管理できる調剤薬局向け本部システム「ミザル」を提供している。インターネットを利用したクラウド型の本部システムで、Windows搭載のパソコンとインターネット環境があればすぐに導入が可能だ。各社レセコンの処方データと医薬品卸の納品データを利用して「発注」から「仕入」「在庫」「棚卸」「売上」の管理まで本部で一元管理することができる。

「ミザル」の特徴は、処方データに基づいた自動発注が可能になり、発注業務の効率化を実現できる自動発注機能を備えていることだ。発注担当者の経験に頼った発注から処方データに基づく自動発注となることで、発注業務が効率化でき、患者中心の対人業務へのシフトをサポートする。

患者単位の前回処方(内服薬)をもとに、次回来局日の処方予定数量を予測する「長期処方薬自動発注機能」は、設定した長期処方日数に基づき、対象患者の次回来局日に処方される内服薬の調剤予定数量と発注時点の在庫数量を比較し、在庫が足りない場合に自動で発注できる。対象患者の来局予定日前に処方薬を品揃えすることが

可能だ。

欠品を気にして余剰在庫になってしまうような在庫ロスの軽減にも役立てる。過去の処方データをもとに適正な在庫量を予測する「需要予測自動発注機能」は、処方データに基づいて設定された適正な発注点を在庫数量が下回ると、予め登録された医薬品が自動で発注される。

また、店舗のデッドストック(余剰在庫品)を本部でコントロールできるため、本部の運用判断で処方実績のある店舗に余剰在庫を自動で按分することで、在庫ロスを減らすことができる。

発注や在庫管理でも多彩な機能を備えている。「分割品発注設定機能」は処方が少ない包装品については自動で分割品がリストアップされるため、キャッシュフローの向上につながる。「納品データ

によるオンライン入庫機能」は発注した商品について各医薬品卸からの納品データが反映されるため、入庫処理を簡素化することが可能。

そのほか、設定した条件で余剰在庫品の自動登録を行うことができる機能や、発注画面から他店舗の余剰在庫品情報、在庫情報を表示できる機能も設けた。

医薬品発注・情報端末機「ENIF」シリーズの最新機種である「FutureENIF」とも連携しており、同端末を利用すると、棚卸業務の負担も大幅に軽減できる。「FutureENIF」から棚卸データを送信し、「ミザル」で取り込みを行うと、画面の実に在庫に棚卸数量が自動反映される仕組みとなっている。

第54回
日本薬剤師会
学術大会CRECON
RESEARCH & CONSULTING

クレコンリサーチ&コンサルティング株式会社

代表取締役社長 木村 仁

〒150-0002

東京都渋谷区渋谷二丁目二番五
電話 〇三(三四〇七)二〇一四番

第54回日本薬剤師会学術大会

(順不同)



三和生薬株式会社

〒321-0905

栃木県宇都宮市平出工業団地六番地一
本社・工場 〇二八(六六一)二四四一
東京営業所 〇三(五八四三)五四四一

森下仁丹株式会社

〒540-8566

代表取締役社長 森下 雄司
大阪市中央区玉造一丁目一三
電話 〇六(六七六一)一一三〇

天藤製薬株式会社

〒560-0082

大阪府豊中市新千里東町一丁目五番三
電話 〇六(六八三五)一三〇〇

株式会社富士薬品

〒330-9508

代表取締役社長 高柳 昌幸
さいたま市大宮区桜木町四一三八
電話 〇四八(六四四)三二四〇

寿製薬株式会社

〒389-0697

代表取締役社長 富山 泰
長野県埴科郡坂城町大字上五明字東川原一九八
電話 〇二六八(八二二)二二一一

岩城製薬株式会社

〒103-8434

代表取締役社長 西久保 吉行
中央区日本橋本町四一八一二
電話 〇三(三六六八)一五七〇

日東メディック株式会社

〒939-2366

代表取締役社長 中井 龍
富山県富山市八尾町保内一四一
電話 〇七六(四五五)三四五一

帝國製薬株式会社

〒769-2695

代表取締役社長 藤岡 実佐子
香川県東かがわ市三本松五六七番地
電話 〇八七九(二二五)二二二一

当ファイルの著作権は(株)薬事日報社またはコンテンツ提供者者に帰属します。当ファイル(印刷物含む)の利用は私的利用の範囲内に限られ、それ以外の無断複製・無断転載・無断引用はご遠慮ください。当ファイル(印刷物含む)を社内資料、営業資料などでご利用される場合はご相談ください。

株式会社薬事日報社 TEL:03-3862-2141 shinbun@yakuji.co.jp http://www.yakuji.co.jp/

CMO / CDMOの皆様は、ぜひご出展ください

第
23
回

インターフェックス ジャパン

医薬品 化粧品 製造展

会期 2021年 **12月8日[水]～10日[金]** 会場 **幕張メッセ**

主催 RX Japan 株式会社 旧社名: リード エグジビション ジャパン

特設 受託製造 ゾーン

出展
対象●CMO / CDMO
●包装受託●充填受託
●受託合成●化粧品OEM
●技術者派遣サービス など

展示会の最新情報を見る▶▶▶

インターフェックス

検索

笑って花を咲かせて人生100年時代
楽しく・おもしろく生きましょう!しょう
笑は しょう
咲にして しょう
勝なり人生 **100** 年時代の指南書

人生計画が何故 重要なのか?



笑いの3大効用



笑いの実践

～顔が笑う、こころが笑う、脳が笑う～



四六判上製 232頁

定価1,980円(本体1,800円+税10%)

一般紙でも
多数紹介
されました。薬剤師であり「薬家きく臓」
の名前で落語も嗜む著者の
座右の銘「仕事は楽しく・
人生はおもしろく」を実践
するための智慧(健康と
笑い)を書き綴った1冊。

中井宏次(薬屋きく臓)氏



FREE!

新型コロナウイルスの影響で気分も重くなる状
況が続く中、「こんな時だからこそ笑顔を大切に
しましょう」という思いから著書

『笑は咲にして勝なり』の中から、

「笑顔体操」を抜粋。

右記より無料でダウンロードできます。

薬事日報社 書籍のご注文は、オンラインショップ(<https://yakuji-shop.jp/>)または、書籍注文FAX03-3866-8408まで。当ファイルの著作権は株式会社薬事日報社またはコンテンツ提供者に帰属します。当ファイル(印刷物含む)の利用は私的利用の範囲内に限られ、それ以外
の無断複製・無断転載・無断引用はご遠慮ください。当ファイル(印刷物含む)を社内資料、営業資料などでご利用される場合はご相談ください。株式会社薬事日報社 TEL:03-3862-2141 shinbun@yakuji.co.jp <http://www.yakuji.co.jp/>

sawai

お薬の情報を迅速に、的確に

多様化する患者様のご要望や、お薬の疑問にお答えするために、
医療機関への医薬品に関する情報提供も、沢井製薬の大切な役目です。
サワイジェネリックを安心してご使用いただくため、
安全管理情報の収集と迅速な提供に取り組んでいます。

- 全国9支店 10営業所 約390人のMR
- 医薬品情報センターの開設
 - ・ お問い合わせ件数 年間 約46,800件
 - ・ 薬剤師資格を持ったコミュニケーターによる24時間365日の対応
- RMP 医薬品リスク管理計画
- 副作用に関する研究報告
- 製造販売後調査

製品に関する資料のご請求やお問い合わせはこちらから



■ 医療関係者向け総合情報サイト
<https://med.sawai.co.jp/>

■ お問い合わせ窓口
 医薬品情報センター 0120-381-999



なによりも患者さんのために

沢井製薬

2021年4月作成

NOAH MEDICAL SYSTEM

ノアメディカルシステムは、地元 福岡→九州→全国のお客様に
質の高いカスタマーサービスを提供しております！

Think Pharmacy
 時代が求める地域密着型の薬局へ



をめ細かな
サポート体制に
自信あり！



ノアくん

◎ノアメディカルシステム製品に関するお問い合わせ・詳しい資料のご請求は>>福岡支店 TEL 092-263-8608 またはホームページから



NOAH MEDICAL SYSTEM
 ノアメディカルシステム株式会社
<https://www.noah-medical.jp/web/>

■ 本社・福岡支店
 〒812-0023 福岡市博多区奈良屋町2-1 博多蔵本太田ビル5F
 TEL 092-263-8608 FAX 092-263-8607

■ 本社・福岡支店 ■ 北九州支店 ■ 久留米支店 ■ 鹿児島支店
 ■ 熊本営業所 ■ 長崎営業所 ■ 宮崎営業所 ■ 東京営業所

当ファイルの著作権は(株)薬事日報社またはコンテンツ提供者に帰属します。当ファイル(印刷物含む)の利用は私的利用の範囲内に限られ、それ以外の無断複製・無断転載・無断引用はご遠慮ください。当ファイル(印刷物含む)を社内資料、営業資料などでご利用される場合はご相談ください。

株式会社薬事日報社 TEL:03-3862-2141 shinbun@yakuji.co.jp <http://www.yakuji.co.jp/>